

東京都市大学 アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー体系図（2024年4月）

東京都市大学

建学の精神

“公正”“自由”“自治”

「学びたい」という一心のもとに学生自らが支援者、教えてくれる人と校地・校舎を探求したことによって創立されたという経緯を尊び、「創立時における学生の熱情」を常に持ち続ける私学として、グローバルな時代に有為な人材育成に努めることを社会に誓う夢と希望のシンボルである。

教育理念

ボーダーを超えて、学生と教職員が共に考え、学び、行動することで社会に貢献できる人材を育てる。

ビジョンー目指す大学像

90年を超える専門的実践教育の伝統に加えて、「都市」をキーワードに時代の要請に取り組み、国際都市東京で存在感を示す有数の私大を目指す。

教育目標

公正・誠実さと自己研鑽力をもち、「都市」に集約されるような複合的課題に取り組むことができ、多種多様なボーダーを超えて新たな価値を見出すことで持続可能な社会の発展に貢献できる人材を育成する。

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）

東京都市大学は、持続可能な社会発展をもたらすための人材育成を目的とし、その目的を達成するための学術研究の領域ごとに学部を設置しています。各学部では、それぞれ定めた「人材養成および教育研究上の目的」に基づき、以下のような能力・意欲・目標を持つ人を求めます。

1. 大学教育に求められる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を持つ人
2. 当該学部学科の学術研究領域に対する強い関心と意欲に基づき、自ら学ぶ姿勢を持つ人
3. 教育研究を通じて身につけた幅広い視野と専門的学識により、持続可能な社会発展に寄与する人材となることを目標とする人

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

東京都市大学は、卒業認定・学位授与に関する方針を達成するために、以下のように教育課程を編成・実施します。

1. 「大学における学び方」を理解するため自校教育を含む初年次教育を実施する科目を配当するとともに、教育課程を通じて主体的・自律的な学習教育を実践する。
2. 学生が自らの知力と人間力を総合し、多様な知識・スキルを持った人々と協働して、複合的課題の設定とその解決にグローバルかつ未来志向の視点で取り組むための科目を配当する。
3. 実践的な英語スキルを含むコミュニケーション力およびチームワーク力を身につける科目を配当する。
4. 建学の精神「公正・自由・自治」を理解するとともに、専門に関わる倫理を理解・実践する力を含む人間力を身につける科目を配当する。
5. 多様な教養科目と、専門の基礎から応用までの知識とスキルを身につける科目を配当する。

卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

東京都市大学は、本学の教育理念に基づき、所定の単位を取得し、以下の知識・能力等を修得した学生に対して卒業を認定し、学士の学位を授与します。

（自ら学ぶ力）

1. 主体的・自律的に学び、自己研鑽できる。（課題を探究する力）
2. 「都市」に集約されるような複合的な課題に対してグローバルかつ未来志向の視点で取り組むことができる。（ボーダーを超える力）
3. 多種多様なボーダーを超えて知識や考え方を共有し、新たな価値を見出すことができる。（協働する力）
4. 公正・誠実に多様な人々と向き合い、柔軟に粘り強く協働することができる。（実践する力）
5. 人類文化と社会を理解し、基礎的および専門的な知識とスキルを身につけ、それらを総合して持続可能な社会の発展に貢献することができる。

人材の養成及び教育研究上の目的

教育理念である「理論と実践」のもと、理工学に関する深い専門性、幅広い教養、豊かな国際性、多様なコミュニケーション能力及び高い倫理観を涵養し、これらの学びを統合させることによって、社会に変革をもたらすための問いを生み出し、社会課題の解決に果敢に挑戦していく研鑽を積むことで、未来を切り拓く探究心、判断力及び実行力を持つ人材を養成を目的とする。

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）

【人材の養成及び教育研究上の目的】
 教育理念である「理論と実践」のもと、理工学に関する深い専門性、幅広い教養、豊かな国際性、多様なコミュニケーション能力及び高い倫理観を涵養し、これらの学びを統合させることによって、社会に変革をもたらすための問いを生み出し、社会課題の解決に果敢に挑戦していく研鑽を積むことで、未来を切り拓く探究心、判断力及び実行力を持つ人材を養成することを目的とします。

【求める人物像】

- ・高等学校で学習する内容をよく理解して、専門分野を学ぶために必要な基礎学力を備え、好奇心を持ち、入学後も主体的に学び続けることができる人
- ・自然科学および科学技術に強い関心を持ち、学びを統合させることによって、社会に変革をもたらすための問いを生み出し、社会課題の解決に果敢に挑戦していく意欲がある人
- ・ゲームチェンジ時代を切り拓き、ワクワク楽しい暮らしができる都市を創るために、幅広い教養と深い専門性に基づく多面的な思考力、未来を自ら切り拓く探究心、判断力及び実行力の修得に意欲がある人

【入学前に学習しておくことが望ましい内容】

理工学部での学修を進めるうえで、高等学校では次の科目を履修していることが望まれます。

- ・数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B）
- ・理科（物理基礎、化学基礎、生物基礎、物理、化学、生物）
- ・外国語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ）

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

理工学部では、「理論と実践」という学部教育理念のもと、学びを統合させることによって、主体的に社会に変革をもたらすための問いを生み出し、社会課題の解決に果敢に挑戦していく研鑽を積むことで、自ら学び続けながら未来を切り拓く探究心、判断力と実行力、及び、技術者や研究者をはじめとしたプロフェッショナルとしての倫理観を持つ人材を養成するため、次のように教育課程を編成する。

1. 幅広い教養と豊かな国際性、多様なコミュニケーション能力を修得し、それを支える心身を鍛錬するために、「教養科目」・「外国語科目」・「体育科目」を配置する。
2. 理工学に関する深い専門性と多面的な思考力、倫理観を修得するために、「理工学基礎科目」と「専門科目」を体系的に配置する。
3. 問いを生み出す力、実社会での複合的な課題を抽出しその課題の解決に果敢に挑戦する姿勢、社会を変革し未来を切り拓く探究心、判断力と実行力、及び、イノベーションにつながる全体最適解を導く力を修得するために、「専門科目」に事例研究や卒業研究等を配置する。

卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得した者に、学科に応じて学士（工学）又は学士（理学）の学位を与える。

1. 幅広い教養と豊かな国際性、多様なコミュニケーション能力を修得し、それを支える心身を鍛錬している。
2. 学びを統合させることによって、主体的に社会に変革をもたらすための問いを生み出し、社会課題の解決に果敢に挑戦する姿勢、理工学に関する深い専門性と多面的な思考力、倫理観を修得している。
3. 幅広い教養と深い専門性を持ち、自ら学び続けながら未来を切り拓く探究心、判断力と実行力、技術者や研究者をはじめとしたプロフェッショナルとしての倫理観の修得、及び、イノベーションにつながる全体最適解を導く力を修得している。

<p style="text-align: center;">機械工学科</p>	<p style="text-align: center;">人材の養成及び教育研究上の目的</p> <p>機械工学の専門知識の修得と実践的学習を通して、工業が自然や人間社会に及ぼす影響に興味と関心を持ち、問題の発見から解決に至る一連の流れを創造して、もの作りができる能力と、社会の多様な問題を解決するためのコミュニケーション能力を向上させることで、社会変革を担える人材の養成を目的とする。</p> <p style="text-align: center;">教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会・健康・安全・法律・文化・環境などに関する教養から、現実の問題の多様性を理解し、工業製品やその生産が自然や人間社会に及ぼす影響に興味と関心を持ち、探求することで発見した問題を解決するために必要な学習姿勢の形成と負っている責任に関して理解しながら「もの作り」のできる能力を修得するための科目（教養科目、理工学教養、技術者倫理）を配置する。 2. 自律的学習能力を修得するための教育目標に対して、科目の中に実験、実習、演習、卒業研究、技術レポートの作成、宿題等によるアクティブラーニングを設定する。 3. 日本語で論理的に物事を考え、記述し、発言できる能力、またグローバルな世界で活躍できるコミュニケーション基礎能力を修得するための科目を配置する。 4. 数学、自然科学など理工学の基礎を幅広く習得し、機械工学に関する問題を解決するための基礎力を修得するための教育課程を編成する。 5. 機械工学のエンジニアとして必要な力学と設計科学に関する教育課程を編成する。専門科目は、系統別に機械力学、材料力学、流体力学、熱力学、材料学、加工学に分類される。建学の精神から、必要最低限の機械工学の教育は必修科目として配置するが、自由・自治の観点から高度な専門科目に関しては選択科目として配置する。なお、専門科目の系統的な教育を促進するために、履修モデルを学修要覧に掲載している。 6. 技術者として自ら問題を発見し、それを解決するためのプロセスを計画的に進め、結果を理工学的に考察できるデザイン能力と責任分担能力を修得するための体験学習科目を配置する。 	<p style="text-align: center;">卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）</p> <p>所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現実の問題に対して多様性を理解し、工業製品やその生産が自然や人間社会に及ぼす影響について考え、機械工学を利用して適切に問題を解決するために必要な学習姿勢が形成されている。また、負っている責任に関して理解しながら「もの作り」ができる。 2. 自律的学習能力を修得している。 3. コミュニケーションを取る中で自己肯定感を向上させ、日本語で論理的に物事を考え、記述し、発言できる能力、またグローバルな世界で活躍できるコミュニケーション基礎能力を修得している。 4. 数学、自然科学など理工学の基礎を利用して機械工学に関する問題を解決するために必要な概念的思考力を身に付け、社会の様々な問題に応用できる。 5. 機械工学のエンジニアとして必要な力学と設計科学に関する教育課程の中の細目の機械力学、材料力学、流体力学、熱力学、材料学、加工学を講義・演習科目を通して修得し、実際の問題に応用できる。専門分野における系統別の総合評価は機械工学科のHPに掲載している学修達成目標レベルの通りである。 6. 技術者として自ら問題を発見し、それを解決するためのプロセスを計画的に進め、結果を理工学的に考察できるデザイン能力と責任分担能力を修得している。 	<p style="text-align: center;">備考（参照基準・到達目標など）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機械工学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーは日本学術会議の機械工学分野の参照基準に準拠している。 2. 機械工学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーはJABEE エンジニアリング系学士課程 機械及び関連の工学分野の認定基準を参考に作成している。 3. 系統別の学修到達目標レベルは、機械工学科のHPに掲載している。 4. 系統的な教育を促進するために、履修モデルを作成し、学修要覧に掲載している。
<p style="text-align: center;">機械システム工学科</p>	<p style="text-align: center;">人材の養成及び教育研究上の目的</p> <p>ものづくり、機械工学、電気工学、制御工学の基礎を幅広く学修し、機械システムを設計する実践的な経験を積むことにより、理論的裏付けを持った実践と協働によって次代の多様な社会的要請に応じた機械システムを構築できると同時に、教養、語学力、国際的思考を有し、社会を担う気概と倫理観を持った技術者の養成を目的とする。</p> <p style="text-align: center;">教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 次代の要請に応じた機械システムの中核を担うことのできる技術者を育成するために、専門知識と実践的経験を双輪とした教育課程を体系的に編成する。 2. 社会人として必要な教養、語学能力、国際的思考の習得や、心身の鍛錬のため教養科目、外国語科目、体育科目を配置し、技術者としての心構えや倫理観を学ぶため、理工学教養系の科目群を配置する。 3. 理工学全般の基礎となる理工学基礎科目の学習と共に、機械システム工学の専門分野への橋渡しとなる基礎力を習得するため、理工学基礎科目および学科共通の科目群を配置する。 4. 機械システム工学に関する主要な学問群である機械工学・力学、電気電子工学、制御工学に関する科目群を配置する。 5. 機械システムを実現するためのものづくりを学ぶため、ものづくりの科目群を配置し、機械システムに関する課題を解決する経験を通して専門分野の理論的な裏付けのある発想に基づいた実践的な問題解決能力を身に付けるため、機械システム設計演習(1a)、(1b)、(2a)、(2b)を配置する。 6. 要素技術の統合や機械システムについて学ぶためシステム工学（学際領域）の科目群を配置する。 7. 機械システム工学科での学習について理解し、主体的に計画性を持って行動し、自主的かつ継続的に学習する力を習得するとともに、技術者として社会を担うため、協働により目標を達成する力を習得するための科目を配置する。 8. 自発的な計画性や主体的な行動力にもとづいて、論理的思考による問題解決能力を総合的に習得し、学科の学習内容を実践により総括するため、卒業研究関連科目群を配置する。 	<p style="text-align: center;">卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）</p> <p>所定の年限在学し、以下の能力を身に付けるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会生活の基盤を支える機械システムを担う技術者として必要となる機械システム全体を理解するための論理的思考を身に付けている。 2. 機械システムを理解するために必要な機械工学と、これに関連する電気電子工学、制御工学、情報工学などの基礎知識とものづくりの素養を修得している。 3. 得られた知識を利用して機械システムを設計し、機械要素技術を実際に統合する実践的な経験を積んでいる。 	<p style="text-align: center;">備考（参照基準・到達目標など）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機械システム工学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーは、日本学術会議の「機械工学分野の参照基準」を中核とし、「電気通信工学の参照基準」と「情報学の参照基準」、JABEE エンジニアリング系学士課程の認定分野の一つである「機械及び関連の工学分野の認定基準」を参考に作成している。 2. 学生の質保証を実現するため、学科内で学習・教育到達目標を定め、評価基準を明らかにしている。 3. 系統的な教育を促進するため、履修モデル、科目系統図を作成し、学修要覧に掲載している。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">電気電子通信工学科</p>	<p>人材の養成及び教育研究上の目的 電気電子通信工学の基礎となる知識を十分に修得した上で、幅広く専門知識を身に付け、さらに学生実験や卒業研究を通して実践的な経験を積むことにより、進化する社会の中で技術者として生き抜く力を養い、現実即した発想のもと身に付けた知識に基づく理論的裏付けを持った実践によって多彩かつ柔軟に応用できる人材の養成を目的とする。</p>	<p>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー） 所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。 1. 幅広い教養を持ち、多面的視点から社会問題を捉えることができ、人間としての高い倫理観をもって、技術者が社会に与える影響、技術者の責任について十分に理解する。 2. 電気電子通信工学で必要な理工学基礎科目に対応する基礎学力、電気電子通信工学の専門コア科目と専門科目に対する十分な知識と応用する能力を修得する。 3. 電気電子通信工学分野の現実の問題に対して、理論的裏付けを持った実践によって、問題発見、解決する能力を有し、深い解析、考察により論理的に結論を導き出すことができる。 4. 幅広いコミュニケーション能力を有し、他者への確に考えを伝え、協働することができ、電気電子通信技術の専門家として社会貢献、自己の将来設計を行うことができる。</p>	<p>備考（参照基準・到達目標など） 1. 電気電子通信工学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーは、日本学術会議の電気電子工学分野の参照基準を参考に作成している。 2. 電気電子通信工学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーは、大学基準協会の工学教育の認定基準案を参考に作成している。 3. 系統別の教育到達目標レベルは、学科内で作成している。 4. 系統的な教育を促進するために、履修モデルを作成し、学修要覧に掲載している。 5. 別途、育成すべき知識・能力と達成目標をまとめた一覧を作成している。</p>
	<p>教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー） 1. 社会・健康・安全・法律・文化・環境などの教養や技術者倫理を修得し、現実の問題に対して、実践力と理論的裏付けに基づく適切な行動をとることができ、自らのキャリアを確立するための教育課程を編成する。具体的には、幅広い教養と国際的コミュニケーション能力を修得し、これを支える心身を鍛練するために、教養科目、外国語科目、体育科目を配置する。 2. 電気電子通信工学を学ぶための基礎知識、電気電子通信工学の専門コア科目、並びに、電気電子通信工学を学ぶための専門科目の各知識・能力を修得するための教育課程を編成する。具体的には、理工学基礎科目として、数学、物理学を中心とした科目を、専門コア科目として、電気回路、電磁気学、電子計測、電子回路、通信工学、電気電子材料に関する科目を、専門科目として、「グリーンエレクトロニクス」、「次世代ドライブシステム」、「超スマートエネルギー社会」「情報通信プラットフォーム」に関係する科目を体系的に配置する。 3. 電気電子通信技術者として仕事を遂行する基礎力と実践力、実社会での課題を探索する問題発見・解決能力、並びに、実社会の複合的な問題を解決する能力を修得するための教育課程を編成する。具体的には、「電気電子通信基礎実験」、「電気電子通信工学実験」、「電気電子通信応用実験」、「事例研究」、「卒業研究」を配置する。 4. プレゼンテーション力、コミュニケーション能力を高め、電気電子通信技術の専門家としての自己の将来設計を高めるための教育課程を編成する。具体的には、「外国語」、「事例研究」、「卒業研究」、「SD PBL(1)」、「SD PBL(2)」、「SD PBL(3)」、「論理的な問題解決の進め方」、「先端工学」、「技術者倫理」、「インターンシップ」などを配置する。</p>	<p>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー） 所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。 1. 医用工学およびその基盤となる学問分野の社会における役割および関係性についての理解を修得している。 2. コミュニケーション能力および協調性を維持し、身につけた社会生活の基盤となる知識をもとに他者と適切に協力しながら社会生活を営む能力を修得している。 3. 学位認定に必須となる限られた知識のみならず、医用工学全体を理解、応用するために必要となる医学、理工学に関する幅広い周辺知識を修得している。 4. 自発的な学習と思考ができ、将来の展望を見据えつつ学んだ知識および経験を生かして社会の要請に対応できる能力を修得している。 5. 医用工学およびその基盤となる知識を身につけた者としての確固たる行動規範を修得している。</p>	<p>備考（参照基準・到達目標など） 学科が目指す教育目標は、医学と理工学の両方の知識を持ち、これを有機的に結びつけて実践に役立てることのできる技術者の育成である。この目標は臨床工学技士国家資格に求められる資質と共通していることから、当学科のカリキュラムを定める際には臨床工学技士法第14条4号の規定に基づき厚生労働大臣が指定する科目群を参考にした。</p>
	<p>人材の養成及び教育研究上の目的 工学分野と医学分野の知識及びその活用に必要な基本知識と技能をバランスよく修得し、それらの知識と技能を有機的に融合させて医療及び福祉に貢献する機器や技術の研究開発を実践できる人材、さらには多様な知識を適切に活用して問題の発見と解決ができ、社会の変化に柔軟に対応できる人材の養成を目的とする。</p>	<p>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー） 所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。 1. 医用工学およびその基盤となる学問分野の社会における役割および関係性についての理解を修得している。 2. コミュニケーション能力および協調性を維持し、身につけた社会生活の基盤となる知識をもとに他者と適切に協力しながら社会生活を営む能力を修得している。 3. 学位認定に必須となる限られた知識のみならず、医用工学全体を理解、応用するために必要となる医学、理工学に関する幅広い周辺知識を修得している。 4. 自発的な学習と思考ができ、将来の展望を見据えつつ学んだ知識および経験を生かして社会の要請に対応できる能力を修得している。 5. 医用工学およびその基盤となる知識を身につけた者としての確固たる行動規範を修得している。</p>	<p>備考（参照基準・到達目標など） 学科が目指す教育目標は、医学と理工学の両方の知識を持ち、これを有機的に結びつけて実践に役立てることのできる技術者の育成である。この目標は臨床工学技士国家資格に求められる資質と共通していることから、当学科のカリキュラムを定める際には臨床工学技士法第14条4号の規定に基づき厚生労働大臣が指定する科目群を参考にした。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">応用化学科</p>	<p>人材の養成及び教育研究上の目的 応用化学に関する系統的な学修、すなわち物質の構造や性質に関連する化学の様々な基礎知識を修得し、化学をベースに新しい物質を創成・利用するための基礎から応用までの専門知識について理解を深め、先進的な研究活動の経験を積むことによって、機能性材料開発、クリーンエネルギー、環境浄化、省資源などの分野で広く活躍できる能力をそなえた人材の養成を目的とする。</p>	<p>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー） 所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。 1. 持続的な発展に向けて化学の担う重要な役割を理解し、自らを自己の思考、判断、行動の支えにできる素養を身に付けている。 2. 技術者に必要な理工学的な基礎知識と化学の専門知識を裏付けとして、社会の発展に必要な課題の発見・解決を実践できる能力を身に付けている。 3. いかなる状況でも論理的な思考に基づいた議論を展開できるプレゼンテーション・コミュニケーション能力を身に付けている。</p>	<p>備考（参照基準・到達目標など） 1. 応用化学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーは、「日本技術者教育認定基準 エンジニアリング系学士課程」を参考にしている。 2. 応用化学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーは、「工学教育に関する基準（大学基準協会）」を参考にしている。 3. 学習・教育目標は、「日本技術者教育認定基準 エンジニアリング系学士課程の化学及び関連工学分野」を参考にしている。 4. 系統的な教育を促進するために履修モデルを作成し、学修要覧等を通じて学生へ周知している。</p>
	<p>教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー） 化学の観点で産業社会の持続的な発展に貢献できる技術者の養成を目指した系統的な教育課程を次のように編成する。 1. 幅広い観点で物事を柔軟に考え判断する素養と能力を培うため、教養科目を配置する。 2. 自主的な学びを支える心身堅牢な自己を確立するため、教養科目、体育科目などを配置する。 3. 化学技術者としての社会的使命と責任を理解するため、技術者倫理を含む理工学教養系科目を理工学基礎科目に配置する。 4. 技術者に必要な理工学の素養を身に付けるため、数学系、自然科学系および情報系科目を理工学基礎科目に配置する。 5. 応用化学の礎となる根幹知識を修得するため、学科共通の専門科目を配置する。 6. 化学の観点で様々な技術課題を見出し、その達成に必要な専門知識を修得するため、「有機・生物化学」、「物理化学・化学工学」、「無機・分析化学」の専門科目群を配置する。 7. いかなる状況でも論理的な思考で自らの主張を文章や口頭で正確に表現しながら適切な議論を進めてゆく能力を身に付けるため、外国語科目、卒業研究関連科目などを配置する。 8. 身に付けた専門知識を課題解決に実践できる能力と、課題解決に向けて主体的に行動できる能力を培うため、実験・実習科目、演習系科目、卒業研究関連科目などを配置する。 9. 様々な制約のなかで計画的かつ合理的な課題への取り組みができる柔軟な判断力と、集団のなかで協働を進められる骨太なリーダーシップを身に付けるため、実験実習系科目、卒業研究関連科目を配置する。</p>	<p>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー） 所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。 1. 持続的な発展に向けて化学の担う重要な役割を理解し、自らを自己の思考、判断、行動の支えにできる素養を身に付けている。 2. 技術者に必要な理工学的な基礎知識と化学の専門知識を裏付けとして、社会の発展に必要な課題の発見・解決を実践できる能力を身に付けている。 3. いかなる状況でも論理的な思考に基づいた議論を展開できるプレゼンテーション・コミュニケーション能力を身に付けている。</p>	<p>備考（参照基準・到達目標など） 1. 応用化学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーは、「日本技術者教育認定基準 エンジニアリング系学士課程」を参考にしている。 2. 応用化学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーは、「工学教育に関する基準（大学基準協会）」を参考にしている。 3. 学習・教育目標は、「日本技術者教育認定基準 エンジニアリング系学士課程の化学及び関連工学分野」を参考にしている。 4. 系統的な教育を促進するために履修モデルを作成し、学修要覧等を通じて学生へ周知している。</p>

理工学部	原子力安全工学科	<p>人材の養成及び教育研究上の目的</p> <p>カーボンフリー電源である原子力エネルギー利用のさらなる安全性向上と発電以外の応用技術創造のために、原子核や原子力安全に関する正しい理論の学修と、放射線の取扱いに関する実務を交えた学修によって、原子力・放射線分野の理論及び技術を修得し、高度で専門的な能力を有する技術者の養成を目的とする。</p>	<p>教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）</p> <p>原子力安全工学科では、社会・健康・安全・法律・文化・環境などの総合的な教養を有し、物理・化学・機械・電気に関わる理学・工学的な基礎知識と高度な伝統的技術を基盤に、原子力の安全に対する正確な知識と高い技術者倫理を備えた原子力技術者を輩出するため、下記の教育課程を編成する。なお、教育課程や担当科目の特質を踏まえ、教員団には放射線を取扱う資格を有し、または産業界の在籍経験から実務について教える能力を有する教員を含む十分な数で構成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術者としての素養を身につけるうえで必要となる教養科目と、国際的なコミュニケーション能力を高めグローバルな原子力技術を育成するために必要な外国語科目を配置する。 2. 物理、化学、機械、電気までの幅広い分野の知識を修得するために必要となる「数学系」「自然科学系」「情報系」「理工学教養系」から構成される理工学基礎科目を配置する。 3. 原子力の安全のための専門知識を修得するための教育課程を編成する。具体的には、「機械分野」、「電気分野」、「情報分野」などの学科共通科目、および、「原子炉工学」、「核燃料サイクル工学」、「原子力構造設計工学」、「原子力安全工学」、「放射線工学」の5つの各専門分野構成を体系的に配置する。 4. 原子力の安全に貢献し得る技術者として必要となる基礎力と実践力、実社会での課題を探索する問題発見・解決能力、ならびに、実社会の複合的な問題を解決する能力を修得するための教育課程を編成する。具体的には、「電気機械・放射線実験」・「原子力実験実習」・「事例研究」・「卒業研究」などを配置する。また、学外の施設を利用したより実践的な実習を目的とした科目を配置する。 	<p>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）</p> <p>所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原子力利用の安全と健全な発展のための理工学的分野から社会工学的分野にわたる総合知識と高い倫理観を修得している。 2. 原子力、放射線等の安全に対する正確な知識と、実際の設備施設を用いた実務レベルの実習・訓練から得られる実学を修得している。 3. 世界的視野にたちグローバル・コミュニケーション能力を修得している。 4. 原子力の安全を工学的に扱うために必要となる教養基礎科目から、原子力利用の安全に関する専門知識を修得している。 5. 絶えざる自己研鑽の士気を涵養し、進歩を希求する積極性を修得している。 6. 併せて、与えられたコストや時間の制約の下で計画的に仕事をまとめられるデザイン能力を養う能力を修得している。 7. 実習などチーム作業の重要局面における自己の役割の弁え方を悟り、かつ他者への思いやりや動機づけ、リーダーシップ等を修得している。 	<p>備考（参照基準・到達目標など）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原子力安全工学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーは、日本学術会議の機械工学分野および電気電子工学分野の参照基準、および、大学基準協会の工学教育の認定基準案を参考に作成している。 2. 系統別の教育到達目標レベルは、学科内で作成している。 3. 学科内各専門分野での履修モデルを学修要覧に掲載し、系統的な教育を促進している。 4. 別途、育成すべき知識・能力と達成目標をまとめた一覧を作成している。
	自然科学科	<p>人材の養成及び教育研究上の目的</p> <p>物理学、化学、生物学、地球科学、天文学及び数学といった自然科学に関する幅広い教育と研究を行うことで、総合的見識、健全な判断力及び物理学の発展に寄与する調査分析能力を醸成させるとともに、複雑化し多様化する社会と科学の間の架け橋となり、人類の持続可能な進歩や福祉に貢献する人材の養成を目的とする。</p>	<p>教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）</p> <p>自然科学に関する総合的な見識と健全な判断力を有し、自然科学の学術的発展に寄与する調査分析能力を身につけ、社会に柔軟に対応できる人材や科学と社会の架け橋となって人類の福祉に貢献する人材を養成するため、次のような方針に基づき教育課程を編成し実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然科学の学術的基礎を幅広く体系的に学べるように科目を配置する。 2. 分析科学、野外調査、情報処理等の技能を実践的に学べるように科目を配置する。 3. 教員、博物館学芸員等に求められる能力と免許、資格が得られるように科目を配置する。 4. 科学史、科学哲学、科学社会学等の素養が得られるように科目を配置する。 	<p>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）</p> <p>所定の期間在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（理学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然科学に関する総合的・理学的な見識と健全な判断力を修得している。 2. 自然科学の学術的発展に寄与する調査分析能力を修得している。 3. 科学の社会の架け橋となって人類の福祉に貢献する能力を修得している。 	<p>備考（参照基準・到達目標など）</p> <p>教育課程は次の法令を参照して編成する。卒業認定・学位授与に際しては、これらの免許、資格のうちいずれか1つの取得に値する能力を修得していることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校教諭一種免許状（数学及び理科）及び高等学校教諭一種免許状（数学及び理科）の取得要件を定める教育職員免許法及び同法施行規則 2. 博物館学芸員資格の取得要件を定める博物館法及び同法施行規則



建築都市デザイン学部

建築都市デザイン学部

建築都市デザイン学部

人材の養成及び教育研究上の目的

建築、社会基盤施設から都市デザインまでをフィールドとして、建築都市の諸問題を解決して、持続的な建築・都市の創造・再生を実現するための学問追求という教育理念に基づき、現実に即したアイデアと理論的裏付けのあるデザインにより、建築や都市に対する社会の要請に対応できる高い能力をそなえた人材の養成を目的とする。

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）

【人材の養成及び教育研究上の目的】

建築都市デザイン学部は、住環境から都市環境さらには地球環境までをデザインし、建築都市の諸問題を解決するための学問追求という教育理念に基づき、現実に即したアイデアと理論的裏付けのあるデザインにより、建築や都市の将来を担える高い能力を備えた建築家、技術者を養成することを目的とします。

【求める人物像】

- ・高等学校で学習する内容をよく理解して、建築学や都市工学を学ぶために必要な基礎学力を備えている人
- ・建築や都市に強い関心を持ち、未知の課題に取り組むことやデザインをすることに意欲がある人
- ・建築都市デザイン学部で学び、専門知識と実践する力を身に付けることを目指す人
- ・建築学や都市工学と社会の関わりについて考えることができ、幅広い視野を持って社会の持続的発展や人類の福祉に貢献する志を持つ人

【入学前に学習しておくことが望ましい内容】

建築都市デザイン学部での学修を進めるうえで、高等学校では次の科目を履修していることが望まれます。

- ・数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B）
- ・理科（物理基礎、化学基礎、物理、化学）
- ・外国語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ）

上記以外に、高校で学ぶすべての科目を重層的に履修することが望まれます。

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

建築都市デザイン学部では、基礎・基本に重点をおき、専門領域の基本となる考え方を学ぶ。その上で、現実に即したアイデアにより、理論的裏付けを持ったデザイン能力を有する人材を養成するため、次のように教育課程を編成する。

1. 幅広い教養と国際的コミュニケーション能力を修得し、それを支える心身を鍛練するために、「教養科目」・「外国語科目」・「体育科目」を配置する。
2. 建築都市デザイン全般に共通する根底となる知識・能力（実行、思考、協働など）・倫理観及び深い専門的知識・能力を修得するために、「学部基盤科目」・「専門科目」を体系的に配置する。
3. 技術者として仕事を遂行する基礎力、実社会での課題を探究する能力及び実社会の複合的な問題を解決する能力を修得するために、「専門科目」のうち事例研究や卒業研究等を配置する。

卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。

1. 社会の発展に貢献する社会人としての、豊かな教養と人間性を修得している。
2. 建築都市デザイン学全般に必要な基礎学力と、学科の分野に対応する十分な専門知識を修得している。
3. 現実に即した発想のもとに、理論的裏付けを持った実践によって、社会の要請に対応できる能力を修得している。

建築学科	<p>人材の養成及び教育研究上の目的</p> <p>科学技術が高度に発展した現代において、歴史・文化を踏まえた上で都市・地域を再生し、人間生活や社会機能の高度化・複雑化に対応でき、自然環境と調和できる建築・都市を実現するために、人間としての幅広い教養、建築学に係わる総合的な基礎能力及び応用能力を培い、広く社会の発展に貢献できる建築設計者・建築技術者の養成を目的とする。</p>	<p>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）</p> <p>所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築学の基礎と専門の各分野に対応する十分な知識と能力を修得し、建築の文化芸術的側面と工学的側面を多角的、総合的に理解できる。 2. 数学、自然科学など工学全般に必要な基礎学力を持ち、様々な問題に応用できる。 3. 現実に即した発想のもとに、理論的裏付けを持った実践によって、問題発見・解決能力やコミュニケーション能力を持つ。 4. 建築の文化、技術の発展に寄与し、社会の発展に貢献する能力を有している。 5. 第三者に伝達したい内容を論理的に記述し、口頭で発表し、討論することのできるコミュニケーション能力および基礎的な国際的コミュニケーション能力を持つ。 	<p>備考（参照基準・到達目標など）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築学科のカリキュラムは、一級建築士受験資格のための科目を必修科目とするなど、学部修了者全員が、一級建築士の受験資格が得られるよう編成されている。 2. 建築学科の学習および教育目標とカリキュラム、カリキュラムポリシーとディプロマポリシーはJ A B E Eの認定基準を参考に作成している。 3. 系統的な教育を促進するために、履修モデルを作成し、学修要覧に掲載することによって学生へ周知している。
	<p>教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）</p> <p>建築学科では、人間—建築—都市という建築都市システムの有機的な関係を理解し、安全・健康・快適な環境を構築し持続的に維持する建築家、建築技術者を養成するため、次のように教育課程を編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会・健康・安全・法律・文化・環境などの教養や技術者倫理を修得し、現実の問題に対して、実践力と理論的な裏付けに基づく適切な行動をとることができ、自らのキャリアを確立するための教育課程を編成する。具体的には、幅広い教養と国際的コミュニケーション能力を修得し、これを支える心身を鍛練するために、「教養科目」・「外国語科目」・「体育科目」を配置する。 2. 建築都市デザイン全般に共通する知識・能力（実行、思考、協働など）、及び、深い専門的知識・能力を修得するための教育課程を編成する。具体的には、「学部基盤科目」と「専門科目」を体系的に配置する。 3. 建築家・建築技術者として仕事を遂行する基礎力と実践力、実社会での課題を探究する問題発見・解決能力、及び、実社会の複合的な問題を解決する能力を修得するため教育課程を編成し、「専門科目」を配置する。 4. コミュニケーション能力を高め、建築の専門家として、自己の将来設計を高めるために教育課程を編成する。具体的には、「外国語科目」、事例研究・卒業研究・設計などを含む「専門科目」を配置する。 5. 卒業と同時に全員が一級建築士の受験資格を満たすようにバランス良く科目を配置する。 	<p>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）</p> <p>所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球の視点に立ち、社会の動向を理解し、技術者としての使命と責任を理解できる教養力を修得している。 2. 情報処理力を含む工学の基礎力と、シビルエンジニアリングに関する実務の知識と理解、デザイン能力を含む総合的な課題解決能力を修得している。 3. 社会の要請に応じた事業を計画・実行するために、相互理解し、説明責任を果たすためのプレゼンテーションとコミュニケーションの能力を修得している。 	<p>備考（参照基準・到達目標など）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 都市工学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーはJ A B E Eエンジニアリング系学士課程の土木および関連の工学分野の認定基準を参考に作成している。 2. 都市工学科では、J A B E E学習・教育到達目標を定めており、具体的な到達目標および評価基準も明らかにしている。 3. これらのポリシー（学習目標など）は入学時のガイダンス、各学期開始時の履修相談で学生に周知されている。
都市工学科	<p>人材の養成及び教育研究上の目的</p> <p>工学の基礎力及びシビルエンジニアリングに関する実務の理解・デザイン能力を含む総合的問題解決能力をそなえた、社会の中核となる人材を育成すること、並びに人間—自然環境—社会システムの健全かつ持続的な共生関係を理解し、安全で快適な都市環境の実現に向けて、都市の構築・維持管理、都市環境の改善・創造、及び災害に強い都市づくりに貢献できるエンジニアの養成を目的とする。</p>	<p>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）</p> <p>所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球の視点に立ち、社会的使命と、技術者が社会に負っている責任を理解するため、「学部基盤科目」において自然科学系科目群を配置する。 2. 都市工学技術者としての社会的使命と、技術者が社会に負っている責任を理解するため、「学部基盤科目」において技術者倫理と「教養科目」を配置する。 3. 都市工学の深い理解のため、「学部基盤科目」において情報系科目群を配置する。 4. 都市の構築・維持管理、都市環境の改善・創造、及び災害に強い都市づくりに貢献できる能力を身につけるため、「専門科目」を配置する。 5. 社会の要請に応じた事業を計画・実行するために、相互理解し、説明責任を果たすための能力を身につけるため、「外国語科目」や「学部基盤科目」において情報系及び総合系科目群を配置する。 6. 課題に主体的に取り組み、解決する能力を身につけるため、「学部基盤科目」においてインターンシップや「専門科目」において都市工学実験演習等の体験学習型の科目を配置する。 7. 課題を自主的に探究し、専門知識や技術を総合して、解決する能力を身につけるため、「専門科目」において設計製図基礎、都市工学設計、事例研究、卒業研究等の科目を配置する。 8. 実務上の問題を理解し対応する基礎能力を身につけるため、「専門科目」においてキャリア開発、設計製図基礎、都市工学設計等及びマネジメント科目群を配置する。 9. 制約のある中で計画的に対処でき、吸収力・応用力のある心身堅固な技術者となるための素養を身につけるために、「専門科目」において事例研究、卒業研究、都市工学設計、都市工学実験演習等の科目や「体育科目」を配置する。 	<p>備考（参照基準・到達目標など）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 都市工学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーはJ A B E Eエンジニアリング系学士課程の土木および関連の工学分野の認定基準を参考に作成している。 2. 都市工学科では、J A B E E学習・教育到達目標を定めており、具体的な到達目標および評価基準も明らかにしている。 3. これらのポリシー（学習目標など）は入学時のガイダンス、各学期開始時の履修相談で学生に周知されている。
	<p>教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）</p> <p>都市工学科では、人間—自然環境—社会システムの健全かつ持続的な共生関係を理解し、安全で快適な都市環境の実現に向けて貢献できる技術者を養成するため、次のように教育課程を編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球の視点に立ち、多面的に物事を考える能力とその素養を身につけるため、「教養科目」や「学部基盤科目」において自然科学系科目群を配置する。 2. 都市工学技術者としての社会的使命と、技術者が社会に負っている責任を理解するため、「学部基盤科目」において技術者倫理と「教養科目」を配置する。 3. 都市工学の深い理解のため、「学部基盤科目」において情報系科目群を配置する。 4. 都市の構築・維持管理、都市環境の改善・創造、及び災害に強い都市づくりに貢献できる能力を身につけるため、「専門科目」を配置する。 5. 社会の要請に応じた事業を計画・実行するために、相互理解し、説明責任を果たすための能力を身につけるため、「外国語科目」や「学部基盤科目」において情報系及び総合系科目群を配置する。 6. 課題に主体的に取り組み、解決する能力を身につけるため、「学部基盤科目」においてインターンシップや「専門科目」において都市工学実験演習等の体験学習型の科目を配置する。 7. 課題を自主的に探究し、専門知識や技術を総合して、解決する能力を身につけるため、「専門科目」において設計製図基礎、都市工学設計、事例研究、卒業研究等の科目を配置する。 8. 実務上の問題を理解し対応する基礎能力を身につけるため、「専門科目」においてキャリア開発、設計製図基礎、都市工学設計等及びマネジメント科目群を配置する。 9. 制約のある中で計画的に対処でき、吸収力・応用力のある心身堅固な技術者となるための素養を身につけるために、「専門科目」において事例研究、卒業研究、都市工学設計、都市工学実験演習等の科目や「体育科目」を配置する。 	<p>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）</p> <p>所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（工学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球の視点に立ち、社会の動向を理解し、技術者としての使命と責任を理解できる教養力を修得している。 2. 情報処理力を含む工学の基礎力と、シビルエンジニアリングに関する実務の知識と理解、デザイン能力を含む総合的な課題解決能力を修得している。 3. 社会の要請に応じた事業を計画・実行するために、相互理解し、説明責任を果たすためのプレゼンテーションとコミュニケーションの能力を修得している。 	<p>備考（参照基準・到達目標など）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 都市工学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーはJ A B E Eエンジニアリング系学士課程の土木および関連の工学分野の認定基準を参考に作成している。 2. 都市工学科では、J A B E E学習・教育到達目標を定めており、具体的な到達目標および評価基準も明らかにしている。 3. これらのポリシー（学習目標など）は入学時のガイダンス、各学期開始時の履修相談で学生に周知されている。

人材の養成及び教育研究上の目的

高度に発達した情報技術を基盤とした豊かで持続可能な社会の実現に向けて、情報工学に関する基礎から応用までの知識や技術を体系的に身に付けるとともに、それらを現実の問題に適用して解決できる能力を有し、社会が要請する情報システムやサービスを実現して国際社会で活躍できる人材の養成を目的とする。

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）

【人材の養成及び教育研究上の目的】
現代の“情報社会”はネットワークの高度化、ビッグデータ解析技術および人工知能（AI）等の発展により“超スマート社会”に進化しようとしています。“超スマート社会”では、情報科学の様々な専門知識を身に付けた技術者、IoTを駆使できる技術者、AI・ビッグデータ解析技術等を諸問題解決に適用できる能力を有する技術者が必要です。情報工学部では、“超スマート社会”の発展に寄与する「知の創造」を担う人材を養成することを目的とします。

【求める人物像】

- ・“超スマート社会”において、イノベーションから新たな価値の創造（知の創造）を志向する人
- ・数学・自然科学に対して興味と探究心を持ち基礎学力と思考力を合わせ持つ人
- ・“超スマート社会”を支える知識・技能を修得する志を持つ人
- ・修得した知識と技能を利用して、国籍、経歴、専門等が異なる人々とコミュニケーションし協働作業をすることを志向する人

【入学前に学習しておくことが望ましい内容】

情報工学部での学修を進めるうえで、高等学校では次の科目を履修していることが望まれます。

- ・数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B）
- ・理科（科目は指定しないが理学的な基礎学力を修得していること）
- ・外国語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ）

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

1. 高度な科学技術の知識を総合的に修得し、それら技術を課題解決・価値創造に活用し、さらに、国際人として活躍できるようにするため、「教養科目、体育科目、外国語科目」「情報工学基盤科目」「専門科目」を体系的に配置する。
2. 学部の教育・研究目標を、社会の多様性に応じて実現するために、学部共通の「情報工学基盤科目」内に「情報基盤系」科目群を配置し、学生のアカデミックキャリアの早期からのプランニングと実践を支援する。
3. 学生同士および学生と教員が多くの時間を共有し、相互の多様性を認めつつ連帯感を持ちながら課題・研究等に取り組む「卒業研究関連科目」群を「専門科目」内に配置することで、主体的に研究・開発を担う資質の養成と、建学の精神である「公正・自由・自治」を実践する気概を養う。

卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

所定の年限在学し、以下の能力とともに所定の単位数を修得した者に、学士(工学)の学位を与える。

1. 情報工学の基礎となる科学から応用としての情報技術までを体系的に理解するとともに、幅広い教養を有し、課題に対してその本質に立ち戻って解決する能力、および国際的に活躍できる能力を修得している。
2. 各学科の専門分野での教育を通じて、修得した知識を総合的に活用できる能力、および関連する新しい知識を生涯にわたり探求する能力を修得している。

情報工学科	<p>人材の養成及び教育研究上の目的 情報工学に関する専門知識と応用能力を兼ね備え、技術を総合的に活用したシステムとしてのコンピュータの開発能力を持ち、社会の要請に応えるべく、問題の本質を積極的に解決する能力を身に付けているだけでなく、コンピュータが豊かな社会に貢献するための倫理観をも身に付けている人材の養成を目的とする。</p>	<p>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー） 所定の年限在学し、以下の能力とともに所定の単位数を修得した者に、学士(工学)の学位を与える。 1. 情報専門学科におけるカリキュラム標準に基づいた専門知識と応用能力を兼ね備え、社会の要請に応えるべく、問題の本質を積極的に解決する能力を身に付けている。 2. コンピュータに関する基盤技術だけでなく、基盤技術を総合的に活用したシステムとしてのコンピュータの開発能力を持ち、コンピュータが豊かな社会に貢献するための倫理観をも身に付けている。</p>	<p>備考（参照基準・到達目標など） 参照基準「情報専門学科におけるカリキュラム標準 J07」 米国のコンピュータに関する最大の学会であるIEEE (The Institute of Electrical and Electronics Engineers) と ACM (Association for Computing Machinery) が策定した情報専門教育に関するカリキュラムを基に、日本の情報処理学会が日本における情報専門教育の状況に対応して見直しを行った標準的なカリキュラム現在は最新カリキュラムである J17 の内容も盛り込んでいる。</p>
	<p>教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー） 情報工学に関する基盤技術や総合的な情報システムの開発能力を有するとともに、技術者倫理を身に付けた創造性豊かな人材を養成する。情報専門学科におけるカリキュラム標準にも準拠し、以下の能力を修得させるためのカリキュラムを制定する。 1. 自己を確立して社会に貢献するために、様々な社会や文化、および歴史を理解し、世界的な視野で物事を考える能力を修得するための科目を配置する。 2. 技術者としての使命感と倫理観をもって社会と環境に対する責任を果たすことのできる能力を修得するための科目を配置する。 3. 情報工学を学ぶために必要な数学・自然科学に関する能力を修得するための科目を配置する。 4. コンピュータを用いた情報処理能力、および情報工学全般に必要な基礎的能力を修得するための科目を配置する。 5. 情報工学に関する幅広い視野とその応用力、および諸問題に対する創成能力・デザイン能力を有する技術者を養成するために「計算機工学」・「メディア工学」・「情報数理」の3つの専門応用科目を配置する。 6. 日本語による論理的記述能力と意思伝達能力の修得、ならびに国際感覚と外国語による意思伝達能力を修得するための科目を配置する。 7. 自発的、継続的に問題を分析・解決する能力、および専門的課題に対する自律能力を修得するための科目を配置する。 8. 与えられた制約の下で諸問題に計画的に対処して成果をまとめる能力、および他分野の人を含む他者と連携したプロジェクト遂行能力を修得するための科目を配置する。</p>	<p>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー） 所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士(工学)の学位を与える。 1. 数学、自然科学、情報など知能情報工学の基礎を社会の様々な問題に応用できる。 2. 知能情報工学の観点から世の中の活動や問題を理解し、問題の対象をシステムとして把握し、対象システムが自然や人間社会に及ぼす影響について考えることができる。 3. 数理的知識と情報ネットワーク技術を活用し、付加価値の高い製品やサービスを産出すシステムを分析・評価・設計できる。 4. 日本語で論理的に物事を考え、表現し、発言できる能力、またグローバルな世界で活躍できるコミュニケーション能力およびマネジメント能力を修得している。 5. 知能情報工学科を専門として学修した者として、当学科の教育課程における科目を修得し、それらの必要な到達目標に到達している。 6. 専門課程修得者として自ら問題を発見し、それを解決するためのプロセスを計画的に進め、結果を知能情報工学的に考察できるデザイン能力と責任分担能力を修得している。</p>	<p>備考（参照基準・到達目標など） 1. 知能情報工学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーは JABEE エンジニアリング系学士課程 経営工学及び関連のエンジニアリング分野の学士課程プログラムに関する分野別要件の認定基準を参考に作成している。 2. 系統的な教育を推進するために、履修モデルを作成し、学修要覧に掲載している。</p>
知能情報工学科	<p>人材の養成及び教育研究上の目的 人工知能や人間の知能など様々な知能を統合・活用しながら、IoT技術でビッグデータを収集でき、データサイエンスを駆使して分析し、その結果から解決案や新しい製品、仕組みをデザインし、それを社会に送り出すマネジメント能力を通じて、超スマート社会にイノベーションを起こすことのできる総合的な技術者の養成を目的とする。</p> <p>教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー） 知能情報工学の観点から社会や人にかかわる問題を把握し、人工知能や人間の知能、クラウド知能など様々な知能を活用してシステムを分析・評価・設計でき、あるいは、グローバルな超スマート社会で付加価値の高い製品やサービスを創造できる人材の養成を目指す。 1. 自然科学・人文科学・社会科学などの教養・体育・外国語科目を配置し、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する。 2. 超スマート社会における諸問題を分析し、解決する基本的な考え方や方法を学ぶために、数学・自然科学・情報等に関する知識工学の基盤科目を配置する。 3. 知能情報工学における問題解決を図るために必要な情報ネットワーク技術、数学的・統計的解析技術、人工知能技術およびマネジメント系基礎に関する科目を配置する。 4. 社会や人にかかわる問題解決のための様々な知能活用技術に特化した教育を行い、より横断的な知識と技術力を持って、グローバルな視点から様々な問題に対応できる教育を行う。 5. 知能情報技術および統計的解析技術などの教育とマネジメント系科目の演習・実験を重視し、「知的経営システム」、「大規模データ解析」、「人工知能」、「人間情報システム」、および「IoT」の5つの専門科目群で構成する。 6. 超スマート社会を実現していくなかで、IoTやネットワークから得られるデータをもとに、人工知能や人間の知能、組織の知能などを統合的に活用するにより、様々な視点からの分析力と設計力、そしてそれを世に広めることのできるマネジメント能力を持つ人材を育成するための科目を設置する。 7. 実験、実習、演習、体験学習等の科目を設置し、アクティブラーニングによって自ら問題を発見し、分析・評価・計画・設計できるデザイン力および提案力を育成する。また必修科目のほか多角的な視点を涵養し、専門分野を深化させ、あるいは応用力を身につけるために選択科目を配置する。なお、専門科目の系統的な教育を促進するために、履修モデルを学修要覧に掲載している。</p>	<p>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー） 所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士(工学)の学位を与える。 1. 数学、自然科学、情報など知能情報工学の基礎を社会の様々な問題に応用できる。 2. 知能情報工学の観点から世の中の活動や問題を理解し、問題の対象をシステムとして把握し、対象システムが自然や人間社会に及ぼす影響について考えることができる。 3. 数理的知識と情報ネットワーク技術を活用し、付加価値の高い製品やサービスを産出すシステムを分析・評価・設計できる。 4. 日本語で論理的に物事を考え、表現し、発言できる能力、またグローバルな世界で活躍できるコミュニケーション能力およびマネジメント能力を修得している。 5. 知能情報工学科を専門として学修した者として、当学科の教育課程における科目を修得し、それらの必要な到達目標に到達している。 6. 専門課程修得者として自ら問題を発見し、それを解決するためのプロセスを計画的に進め、結果を知能情報工学的に考察できるデザイン能力と責任分担能力を修得している。</p>	<p>備考（参照基準・到達目標など） 1. 知能情報工学科のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーは JABEE エンジニアリング系学士課程 経営工学及び関連のエンジニアリング分野の学士課程プログラムに関する分野別要件の認定基準を参考に作成している。 2. 系統的な教育を推進するために、履修モデルを作成し、学修要覧に掲載している。</p>

環境学部

環境学部

環境学部

人材の養成及び教育研究上の目的

グローバルな視野のもと、地域から地球規模に及ぶ環境問題を科学的に捉え、自然環境と都市環境を調和させることで持続可能な未来社会を創造し、政策科学に立脚した経済システムを環境調和型に転換することによって、カーボンニュートラルの実現、ひいては循環型で持続可能な社会の構築に貢献できる人材の養成を目的とする。

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）

【人材の養成および教育研究上の目的】

グローバルな視野のもと、地域から地球規模に及ぶ環境問題を科学的に捉え、自然環境と都市環境を調和させることで持続可能な未来社会を創造し、政策科学に立脚した経済システムを環境調和型に転換することによって、カーボンニュートラルの実現、ひいては循環型で持続可能な社会の構築に貢献できる人材の養成を目的とします。

【求める人物像】

- ・生態系の保全・復元、環境に配慮した都市環境、持続可能な社会を実現する意欲のある人
- ・自然のメカニズムや環境の分析・調査に関する知識や技能を身に付けたい人
- ・環境問題を理解する思考力や環境を可視化し発信する表現力を身に付けたい人
- ・環境問題解決のために主体的に行動し、周囲と協働できる人
- ・多様な人々や価値が共存するグローバル社会に対応する意欲のある人

【入学前に学習しておくことが望ましい内容】

環境学部での学修を進めるうえで、高等学校では次の科目を履修していることが望まれます。

- ・数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B）
- ・国語（国語総合）
- ・外国語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ）

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

1. 環境に関連する幅広い視野と教養を身に着けるために、外国語科目、体育科目、および社会科学・人文学・自然科学、情報処理、社会実習などに関わる科目等の教養科目を配置する。
2. 高い倫理観をもって社会の持続可能な発展を構想し、かつ環境問題を科学的に調査、分析及び評価するために、自然・人文学・社会科学における広範かつ必要な専門基礎科目を設置する。
3. 環境問題を解決する専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために、学科基盤科目と学科専門科目を設ける。学科共通の基盤科目として、数理統計系科目、分析計測系科目、環境問題と関連する科目群を配置する。また、学科の専門科目として、各専門分野に独自の専門性の高い科目群を配置する。
4. 3年次の事例研究および4年次の卒業研究を必修として設置する。学生が主体的に問題を見出し、その問題に適した理論的枠組みを作り、調査や分析を行い、問題の解決に関する論文を執筆して発表する。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

所定の年限在学し、以下の能力を身に着けるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（環境学）の学位を与える。

1. 地域から地球規模に至るまで、人類が直面する環境問題に対して、科学的な調査、分析及び評価ができ、解決方法を構想することができる能力を修得している。
2. 環境に対する高い倫理観をもって、社会の持続可能な発展に貢献することができる能力を身に着けている。
3. 環境に関連する幅広い教養と学識を身に付け、異なる文化や価値観を持つ人々とのコミュニケーションができる能力を身に付けている。

<p>環境創生学科</p>	<p>人材の養成及び教育研究上の目的 持続可能な社会の基盤である生態環境、都市環境及びそれらの相互関係性を理解させるとともに、劣化した自然環境の保全・復元・創造や人間社会にとって安全で快適な都市空間の創造についての理念と方法論を修得させることによって、実社会において持続的な環境を創生できる専門家の養成を目的とする。</p> <p>教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー） 環境創生学科では、自然科学的視点を基本とする研究と教育を展開する。そのために、自然環境の保全や修復及び創生を扱う「生態環境分野」、および人間及び人間社会にとって快適な空間を創出する「都市環境分野」の二つの専門分野を設定し、以下の4点を重視した教育を推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い視野と教養を身に付けるために、外国語、体育、および社会科学・人文学・自然科学、情報処理、社会実習に関わる科目等の教養科目を配置する。 2. 自然環境や建造環境に関する問題を実践的に学修するために、また横浜キャンパスの環境に配慮した設備や保全林を有効活用するために、環境フィールド・計測演習、環境情報可視化技法、生態環境実習、測量学実習など、実習や演習のフィールド系科目を配置する。 3. 自然科学的な視点と方法で環境問題を学ぶために、環境教理学入門、環境統計学、環境化学、環境分析演習、地理情報システム、環境モニタリング技術、生態系アセスメントなど、環境に関する情報を計測・数量化・分析する学科基礎・基盤系科目を配置する。 4. 持続可能社会の構築に向け社会科学的方法を学習するために、専門基礎科目において社会科学系科目を配置する。また環境問題の解決に向けた地域社会や政策を学習するためにより応用的な学科専門科目や「事例研究」、「卒業研究」を配置する。 	<p>学位授与の方針（ディプロマポリシー） 所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（環境学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 都市、地域、そして地球環境に関する広範な知識と教養を持ち、それらを実社会に応用する能力を身につけている。 2. 顕在化する環境問題を科学的に理解し、問題解決のための政策や手段を構想する能力を修得している。 3. 持続可能社会を構築するために必要な環境情報を処理し共有し、分析やモニタリングを行う知識と能力を修得している。 4. 自然の持つ多様性を人工環境に取り入れて、快適な環境を創出する知識と能力を修得している。 	<p>備考</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学科では、大学基準協会の「大学基準」の教育課程・教育内容に基づき、国際化・情報化への対応、学術の動向や社会要請に留意し、体系的な科目編成を行っている。 2. 中央教育審議会答申の学習成果に関する指針では、①知識・理解として、基本的な知識の体系的理解と、歴史・社会・自然との関連づけによる理解、②汎用的な技能として、コミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力、③態度・志向性として、自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観、社会的責任、生涯学習力、④統合的な学習経験と創造的思考力を獲得することを目標とした教育課程とすることを指摘している。本学科では、これを参照してベースにしつつ、これら目標を達成し更なる工夫をしたカリキュラム構成としている。 3. 技術士補（環境）、環境計量士、自然再生士補、ビオトープ管理士などの資格取得ができる科目編成を行っている。また、測量士補は、124単位中60単位を資格取得のため必修科目として配置している。
<p>環境経営システム学科</p>	<p>人材の養成及び教育研究上の目的 気候変動、廃棄物問題、大気と水の汚染、生物多様性の消失などの現在直面する地球環境問題は、人間の日常生活と事業活動が原因で発生している。このような問題に対処するために、環境経営と環境政策を基軸とする教育と研究を推進し、循環型で持続可能な社会の実現に向けた提案や実践を行うことができる人材の養成を目的とする。</p> <p>教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー） 環境経営システム学科では、企業が環境に調和した製品や技術を開発して持続可能型経営に転換するための知識や技術を学ぶ「環境経営分野」、および持続可能な企業活動、消費行動および社会活動を促進するための政策立案について学ぶ「環境政策分野」の二つの専門分野を設定し、以下の3点を重視した教育を推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際的で幅広い視点から持続可能な発展の実現のための具体的な提案と行動を実践できる人材の育成のため、外国語、体育、人文科学、情報処理、社会実習などの教養科目を配置する。 2. 地球環境問題の実際の解決に不可欠な社会科学と自然科学双方の知識の修得は、専門基礎科目でマイクロ経済学、生態学概論等の基礎知識を学んだ上で、より応用的な環境ロジスティクス、環境経済学等の学科専門科目ならびに「事例研究」および「卒業研究」で、環境問題を実際に解決するための問題発見・解決能力を身に付ける。 3. 学科専門科目、「事例研究」および「卒業研究」では、企業、政府機関、市民団体との協働によるプロジェクト教育も充実させる。 	<p>学位授与の方針（ディプロマポリシー） 所定の年限在学し、所定の単位数を修得し、以下の能力を身に付けた者に、学士（環境学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 持続可能社会について理解し、それを実現するために必要な専門的な知識およびビジョンを修得している。 2. 企業、政府、市民社会から成る実社会の特徴と課題を認識し、実社会における問題解決のための専門知識に基づいた提案と実践力を身に付けている。 3. 国際的な視点に立ったうえで、修得した知識に基づいて実社会において持続可能な社会を実現するための問題解決と実践力を修得している。 	<p>備考</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学科では、持続可能な発展の実現に向けて、具体的な提案と行動を実践できる人材を育成するために科目編成を行っている。 2. 学習成果としては、①環境・持続可能な社会を実現するために必要な専門的な知識、②企業（環境経営）、政府および市民社会（環境政策）で活躍できるスキル、③国際的な視点、④問題解決のための提案と実践力を習得することが出来るカリキュラム構成としている。 3. 環境管理士、宅地建物取引士、公害防止管理者などの資格取得が出来る科目編成を行っている。

人材の養成及び教育研究上の目的
人間と情報通信技術の調和による、より良い社会の実現に向けて、人間社会や、情報通信技術が生み出す新しい情報環境を深く理解した上で、社会的仕組みや情報システムを調査・分析する能力を身に付けるとともに、新しい仕組みやシステムを実現・評価・改善することができる人材の養成を目的とする。

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）
【人材の養成および教育研究上の目的】
変化する情報・コミュニケーション環境のもとで、新たな情報社会を創り出すことを目指します。そのために情報通信技術が生み出す社会を調査、分析し、より良い生活の実現に向け、情報システムや社会の仕組みを創造し、さらに評価、改善できる人材を養成することを目的とします。

- 【求める人物像】
- ・学科の学修に必要な基礎的学力を身に付けている人
 - ・学科の研究領域に関心を持ち、情報と社会の諸問題に取り組む高い意欲がある人
 - ・知的好奇心が旺盛で、主体的に学修を深めることができる人

【入学前に学習しておくことが望ましい内容】
メディア情報学部での学修を進めるうえで、各学科において、高等学校では次の科目を履修していることが望まれます。

- 【社会メディア学科】
- ・外国語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ）
 - ・国語（国語総合）または数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B）

- 【情報システム学科】
- ・外国語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ）
 - ・数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B）

- 教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）**
1. 情報と社会に関する幅広い視野と教養を身につけるため、自然科学・社会科学両面の「教養科目」及び「体育科目」を設置し、また異なる文化や価値観の人々とのコミュニケーション能力を身につけるために「外国語科目」を設置する。
 2. 情報と社会を理解し分析するにあたって必要な基礎知識や技能等を、社会科学と情報科学の視点から修得させることを目的として「専門基礎科目」を設置する。
 3. 学科に係る専門的な方法論と知識を学び、また学科の専門分野に共通して修得すべき知識の学習を行って専門科目での学習の基盤を養うため「学科基盤科目」を配置する。
 4. 社会・人間環境や情報環境に関する現状やニーズの調査・分析、評価、問題解決に向けて、実習や演習を重視し実践的に能力の積み上げを図るための「学科専門科目」「専門科目」を体系的に設置する。
 5. 調査・分析能力及び問題解決・提言能力のさらなる涵養と、主体的に研究・開発を担う資質の育成、さらには建学の精神である「公正・自由・自治」を実践する気概を養うことを目的として、「事例研究」「卒業研究」を設定する。

- 学位授与の方針（ディプロマポリシー）**
- 所定の年限在学して、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、社会メディア学科においては学士（社会情報学）、情報システム学科においては学士（情報学）の学位を与える。
1. 各学科が設定した専門分野と関連領域について学習し、情報と社会に係る事象について自然科学・社会科学両面から研究する力を修得している。
 2. 情報と社会に関連する幅広い教養を身につけ、異なる文化や価値観を持つ人々とコミュニケーションする力を修得している。
 3. 社会・人間環境や情報環境に関して、現状やニーズを調査・分析、評価する能力、および課題解決に向けた提案やシステム構築のための基礎知識を持ち、その実現のためのコミュニケーション力、マネジメント力を修得している。

社会メディア学科	人材の養成及び教育研究上の目的	グローバルな諸問題から身近なコミュニケーション問題までを、社会科学的視点から調査分析し、情報メディアを駆使した解決法を編み出し、社会に向けて説得的に提言できる人材、そのために必要な実践力・リサーチ力、デザイン力、コミュニケーション力等をそなえた人材の養成を目的とする。		
	教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）	学位授与の方針（ディプロマポリシー）	備考	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い視野と教養を身につけるために、外国語科目、体育科目、および、社会科学、人文学、情報処理、社会実習に関わる科目等からなる教養科目を設置する。 2. 情報社会を理解し分析するにあたって必要な基礎知識や技能等について、社会科学と情報科学の視点から修得させることを目的として専門基礎科目を設置する。 3. 学科に関わる専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために、専門科目を設置する。学科基盤科目と専門分野ごとの学科専門科目を置き、社会環境、情報環境などを調査・分析し、解決に向けた提言、構築ができる基礎能力を身につけることができる構成とする。 4. 学科基盤科目では、学科の専門分野に共通して修得すべき科目を教授し、専門科目の体系的学習の基盤を養う。 5. 学科基盤科目では、社会メディアに関連する社会学・心理学・認知科学等関連領域の理論や基礎知識、思考・発想法、基礎的スキル、方法論、ウェブデザイン関連科目などから構成する。 6. 学科専門科目では、専門分野を「ソーシャルデザイン分野」と「メディア・コミュニケーション分野」の2分野に区分し、それぞれ独自の専門性の高い科目群によって構成することで専門分野を深く掘り下げた内容を教授する。 7. 専門科目では、実習や演習等を重視し、実践的に能力の積み上げを図る。3年次の事例研究および4年次の卒業研究を必修とし、調査・分析能力、問題の解決・提言能力の涵養に向け、丁寧な個別指導を行う。 	<p>所定の年限在学して、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（社会情報学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学科が設定した専門分野とそれに関連した領域について学習し、広い範囲の社会領域の事象に対し社会科学的方法論に基づく研究を行う力を修得している。 2. 社会と情報に関連する幅広い教養を身につけ、異なる文化や価値観を持つ人々とコミュニケーションする力を修得している。 3. 社会・人間環境や情報環境に関して、現状やニーズを調査・分析、評価する能力、および課題解決に向けた提言やプロトタイプの実現を行うだけの基礎知識を持ち、さらにその実現のためのコミュニケーション力、マネジメント力を修得している。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本学科では、新たなメディアやコミュニケーションの場をデザイン・提案できる人材及び、社会科学的な視点で調査・分析を行い、コミュニケーション面からの社会問題解決を目指す人材を育成するための科目編成を行っている。 2. 高等学校教諭一種免許状（情報）や社会調査士などの資格取得が出来る科目編成を行っている。 3. 卒業後の進路を見据えた系統的な学修を促すため、「履修モデル」「履修系統図」「学習・教育到達目標と授業科目の関係」を作成し、学修要覧に掲載している。 	
情報システム学科	人材の養成及び教育研究上の目的	人々が幸福に暮らせる自然環境・社会環境を維持発展していく基盤として、多様なニーズに応える安全で安心な情報システムの実現に向けた諸課題に取り組むことで、優れたシステムを作り上げるとともに、その必要性を戦略的に提言・説明し実現に向けマネジメントできるアセスメント力を持った人材の養成を目的とする。		
	教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）	学位授与の方針（ディプロマポリシー）	備考	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い視野と教養を身につけるために、外国語科目、体育科目、および、社会科学、人文学、情報処理、社会実習に関わる科目等からなる教養科目を設置する。 2. 情報社会を理解し分析するにあたって必要な基礎知識や技能等について、社会科学と情報科学の視点から修得させることを目的として専門基礎科目を設置する。 3. 学科に関わる専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために、情報システム構築に必要な科目と情報システムや情報サービスの分析、評価を行うために必要な科目を設置する。学科基盤科目と専門分野ごとの学科専門科目を置き、ユーザの立場から誰もが安心して安全に使える人に優しい情報システムを構築することができる基礎技術と個人から企業組織まで多様なニーズをくみ上げて調査、分析、評価、改善できる基礎的能力を身につけることができる構成とする。 4. 学科基盤科目では、学科の専門分野に共通して修得すべき科目を教授し、専門科目の体系的学習の基盤を養う。学科基盤科目として、情報システムを実現する上で必要とされる数学に関する標準的な科目、プログラミングやソフトウェア開発に関する科目、情報理論、人工知能など情報学の基礎を学ぶ科目、映像や音などメディア処理を学ぶ科目、インターネットや情報セキュリティなどの情報ネットワークを学ぶ科目、情報システムと人間・社会との関わり方を学ぶ科目などから構成する。 5. 学科専門科目では、専門分野を「システムデザイン」と「ICTアセスメント」の2分野に区分し、情報システムをデザインし、これを作り上げる情報システム要素技術を統合できる能力を養う専門性の高い科目群によって構成することで専門分野を深く掘り下げた内容を教授する。 6. 専門科目では、実習や演習等を重視し、実践的に能力の積み上げを図る。3年次の事例研究および4年次の卒業研究を必修とし、調査・分析能力、問題の解決・提言能力の涵養に向け、丁寧な個別指導を行う。 	<p>所定の年限在学して、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（情報学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学科が設定した専門分野とそれに関連した領域について学習し、ユーザの立場から誰もが安心して安全に使える人に優しい情報システムを構築することができる基礎技術と個人から企業組織まで多様なニーズをくみ上げて調査、分析、評価、改善する基礎的能力を修得している。 2. プログラミング、ソフトウェア開発、情報学の基礎、メディア処理技術、情報ネットワーク技術を理解し、社会において情報技術を活用する能力を修得している。 3. 情報システムやサービスに関して、ユーザのニーズを調査・分析し、評価する能力を持ち、課題解決に向けて、提言する能力を修得している。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本学科では、利用者の情報システムに対する多様なニーズ・視点に立ったシステム構築を実現でき、高度な情報システム実現に向け、調査・分析・実現・評価・改善をプロデュースする人材を育成するための科目編成を行っている。 2. 高等学校教諭一種免許状（情報）の資格取得が出来る科目編成を行っている。 3. 卒業後の進路を見据えた系統的な学修を促すため、「履修モデル」「履修系統図」「学習・教育到達目標と授業科目の関係」を作成し、学修要覧に掲載している。 	

デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科	デザイン・データ科学科	<p>人材の養成及び教育研究上の目的</p> <p>定量・定性の両方のデータ科学に関する知識と技術に裏付けられた批判的思考力と論理的思考力、そしてグローバルリテラシーの涵養により、世界のあらゆる「もの」と「こと」を読み解く能力を修得させる。その上で、実社会における多種多様な課題を解決するために、新たな「もの」と「こと」を具体的に、構想・設計・構築、すなわち、デザインできる実践的な専門力を持つ人材の養成を目的とする。</p>	
	<p>入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）</p> <p>【人材の養成及び教育研究上の目的】</p> <p>デザイン・データ科学部では、定量・定性の両方のデータ科学に関する知識と技術に裏付けられた批判的思考力と論理的思考力、そしてグローバルリテラシーの涵養により、世界のあらゆる「もの」と「こと」を読み解く能力を修得します。その上で、実社会における多種多様な課題を解決するために、新たな「もの」と「こと」を具体的に、構想・設計・構築、すなわち、デザインできる実践的な専門力を持つ人材の養成を目的とします。</p> <p>【求める人物像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆるデータの利活用と、人と社会に役立つ「もの」「こと」のデザインを志向する人 ・修得した知識と技術を活用し、国籍、文化、専門等が異なる人々とのコミュニケーションによる主体的協働作業を志向する人 ・数学・社会科学に対して興味と探究心を持ち、これを基にした思考力を合わせ持つ人 ・修学に必要な英語力を有し、海外留学で幅広い教養を修得するコミュニケーション力向上に努力を惜しまない人 <p>【入学前に学習しておくことが望ましい内容】</p> <p>デザイン・データ科学部での学修を進めるうえで、高等学校では次の科目を履修していることが望まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B） ・国語（国語総合） ・外国語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ） 	<p>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）</p> <p>所定の年限在学し、以下の能力を身に着けるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（学術）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定量・定性データ分析のデータ科学技術と批判的思考力・論理的思考力を基盤として、実社会に役立つ「もの」「こと」双方のデザインに関する専門性を修得している。 2. データ科学とデザイン技術に関して修得した知識、技術によって、人と社会のあらゆる現象の課題とそのメカニズムを読み解き、新たな「もの」「こと」のデザインによる課題解決のための構想力と創造力を修得している。 3. グローバルに活躍できる言語的リテラシーと国際的感覚を修得している。 	<p>備考（参照基準・到達目標など）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムが策定した「数理・データサイエンス・AI（応用基礎レベル）モデルカリキュラム」に準拠して教育課程を編成している。 2. 系統的な学修を促進するため、「履修モデル」「履修系統図」「学習・教育到達目標と授業科目の関係」を作成し、学修要覧に掲載している。

都市生活学部 都市生活学科	都市生活学科	<p>人材の養成及び教育研究上の目的</p> <p>都市の経営とデザインに関する企画力を有し、事業の推進及び管理運営を担う構想力・実践力を兼ね備え、都市に関する豊富な知見と国際人として活躍できるコミュニケーションスキルを活用して、魅力的で持続可能な都市生活の創造に資する人材の養成を目的とする。</p>	
	<p>入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）</p> <p>【人材の養成及び教育研究上の目的】</p> <p>国際化、情報化が進み、世界人口の半数以上が都市に暮らす現代、人々の生活の質を持続的に高める都市創造の学問と実践が必要です。都市を学ぶ総合的な学修環境の中で、社会科学と空間デザインの両方のスキルを幅広く習得し、都市の新時代をリードするビジネスと文化の創造力を身に付けて、企業人や専門家として国際社会で活躍できる人材を養成することを目的とします。</p> <p>【求める人物像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市生活学部の理念に共感し、「都市」に関心を持ち、将来、都市に関連する分野で活躍したいと望む人 ・商学や経営学等の社会科学系の勉学を基本にし、街並みやインテリアなどの空間デザイン、都市の文化・芸術など、幅広い分野に興味を抱き、好奇心旺盛な人 ・世界中の都市を舞台に、価値ある都市生活の創造に向けて国際社会で活躍したいと望む実践的な人 <p>【入学前に学習しておくことが望ましい内容】</p> <p>都市生活学部での学修を進めるうえで、高等学校では次の科目を履修していることが望まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ） ・国語（国語総合） ・地理歴史（世界史A、日本史A、地理A、世界史B、日本史B、地理Bの中から2科目以上） ・数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B） 	<p>卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）</p> <p>所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位を修得した者に、学士（都市生活学）の学位を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会を見通す広い教養と、国際的な場で活躍できるコミュニケーション能力を有し、責任ある社会人として活躍できる基礎能力を修得している。 2. 社会科学的方法論と芸術・工学的な方法論を複合的に習得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を修得している。 3. 都市に関する総合的・横断的な知識と、特定領域の深い専門知識を持ち、それらを応用して都市生活の価値創造に寄与する構想力および実践力を修得している。 	<p>備考（参照基準・到達目標など）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 都市生活学部のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーは、大学基準協会の大学基準、日本学術会議の経営学分野および土木工学・建築学分野の参照基準に準拠している。 2. カリキュラムポリシーとしては宅地建物取引士資格、1・2級建築士資格受験、公務員受験等に必要とされる科目群も参照基準としている。 3. 領域内の系統的な教育を促進するために、履修モデルを作成し、学修要覧などに掲載している。

人間科学部
人間科学科

人材の養成及び教育研究上の目的

人間・社会・文化・環境の持続可能な発展に様々な学問の総合をもって取り組む人間科学の理念に基づき、「教育・保育」「発達・心理」「保健・医療」「福祉」「環境」「文化」を含む多様な領域について総合的、複眼的に理解し、現代社会の抱える様々な課題の解決に貢献できる豊かな感性としなやかな知性をそなえた学際性と専門性を持つ、自立した人材の養成を目的とする。

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）

【人材の養成及び教育研究上の目的】

人間科学部では、人間・社会・文化・環境の持続可能な発展に様々な学問の総合をもって取り組む人間科学の理念に則った教育をしています。この理念に基づき、「教育・保育」「発達・心理」「保健・医療」「福祉」「環境」「文化」を含む多様な領域について総合的、複眼的に理解し、現代社会の抱える様々な課題の解決に貢献できる豊かな感性としなやかな知性をそなえた学際性と専門性を持つ、自立した人材の養成を目指しています。

【求める人物像】

- ・人間への興味・関心を持ち、あらゆる人を尊重する心をもつ人
- ・子どもから大人まで人間について、様々な視点から総合的に学んでいく意欲のある人
- ・大学で学ぶための基礎学力のある人
- ・自律心があり、人と協力しながら積極的に行動できる人
- ・目的に向かって困難を乗り越え、努力しようとする強い意志を持つ人

【入学前に学習しておくことが望ましい内容】

人間科学部での学修を進めるうえで、文系科目はもとより、理系科目も含めた幅広い基礎的知識の学習が必要です。特に国際的な観点からも外国語の能力が求められます。

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

人間科学部では、人間科学科を置き、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成している。

1. 人類の持続可能な発展に貢献できる学際的な教養と、深い人間理解に基づいた社会課題の解決に資する広範な知識と実践力を培うことを目的とし、基礎から専門にわたって幅広い科目を設置する。
2. 学生が主体的、協働的に学ぶ力を育むとともに、現代社会の抱える様々な課題の解決に貢献できる柔軟な思考力、分析力、問題解決力、自己表現力、コミュニケーション力、倫理観を養うことを目的とし、SDPBL (1)、特別研究、卒業研究等の少人数制の科目を設置する。
3. あらゆる世代を対象とした様々な社会課題の解決に、深い人間理解に根ざした総合的で複眼的なアプローチをとることのできる専門職人材の育成を目指し、「保育士資格」ならびに「幼稚園教諭一種免許状」の取得に必要な専門科目を置くとともに、豊かな人間性と創造的な実践力を育むための幅広い参加型プログラムを提供する。
4. 人類の持続可能な発展に国際的な視野をもって取り組むことのできる柔軟な思考力、コミュニケーション力、協調性を養うことを目的とし、「SD-PBL」「海外研修」「インターンシップ」「ボランティア」等の科目を設置する。

卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位数を修得した者に、学士（人間科学）の学位を与える。

1. 人類の持続可能な発展に貢献できる学際的な教養と、深い人間理解に基づいた社会課題の解決に資する広範な知識と実践力を身につけている。
2. 現代社会の抱える様々な課題の解決に貢献できる柔軟な思考力、分析力、問題解決力、自己表現力、コミュニケーション力、倫理観を身につけている。
3. あらゆる世代を対象とした様々な社会課題の解決に、深い人間理解に根ざした総合的で複眼的なアプローチをとることのできる高い専門性と実践力を身につけている。
4. 人類の持続可能な発展に国際的な視野を持って取り組むことのできる柔軟な思考力、コミュニケーション力、協調性を身につけている。

備考（参照基準・到達目標など）

1. 人間科学科は、あらゆる世代を対象とした様々な社会課題の解決に、深い人間理解に根ざした総合的で多角的なアプローチをとることのできる専門職人材の育成を目指し、「保育士資格」ならびに「幼稚園教諭一種免許状」の取得に必要な専門科目を置く。これらの資格・免許の取得を希望する者は、人間性の尊重の理念に通じる豊かな人間性、倫理観、責任感を持ち、自らの資質、能力をつねに向上させていくことへの自覚と意欲を有することが求められる。
2. 人間科学科の教育課程は、日本学術会議ならびにこども家庭庁、文部科学省の定める「保育士資格」、「幼稚園教諭一種免許状」の取得要件に準拠したもとなっており、国の定めによる教育課程の認定を受けている。
3. 人間科学科では教育課程の系統性を精査し、学生の修学の連続性を明らかにすることを目的とし、学修要覧に「教育目標と授業科目との関連図」「履修モデル」「履修系統図」を掲載し、教育課程の系統性と修学過程の可視化に努めている。
4. 人間科学科の教育課程は、流動的な社会情勢や、その時々々の社会的ニーズと有機的な関連を保ちながら編成されている。このため、制度や政策、社会情勢の変化に応じて柔軟にディプロマポリシーやカリキュラムポリシーを改善していくことのできるシステムを有している。

東京都市大学大学院

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）

東京都市大学大学院は、持続可能な社会発展をもたらすための人材育成を目的とし、その目的を達成するための学術研究の専門分野に対応して研究科を設置しています。各研究科では、それぞれ定めた「人材養成および教育研究上の目的」に基づき、以下のような能力・意欲・目標を持つ人を求めます。

□博士前期課程

現代社会では、経済・社会・環境の3つの要素を考慮し、持続可能な社会開発が求められています。そのためには、確かな専門能力に基づき横断的かつ複合的に社会の諸問題を解決できる人材が必要です。そこで、入学を希望する学生には以下の項目に対して共有できることを求めます。

- 本学の掲げる「教育理念」と「教育目的」への共感
- 多面的かつ複合的な視点とそれに基づく論理的思考
- 未知な問題に対する強い関心とその解決に対するチャレンジ精神
- 専門的な能力を有するものとして必要なコミュニケーション力
- 人間として持つべき倫理観

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

東京都市大学大学院は、修了認定・学位授与に関する方針を達成するために、以下のように教育課程を編成・実施します。

□博士前期課程

- 研究能力の養成に資する専門基礎科目群を編成するとともに、分野ごとの高度な専門知識の修得に資する専門科目群を編成する。
- 幅広い教養を持ち、国際社会で活躍できる人材を育成するため、共通科目群を編成する。
- 専門分野に関する特定の課題を深く追求し、高度な研究能力を修得するため、特別研究を設置する。

□博士後期課程

- 高度な学術研究を遂行する研究者として備えるべき見識と素養を身に着けるため、学際的な教養、先端的な研究方法、研究成果を体系化する能力などを獲得し、併せて研究倫理を徹底するとともに、教育者としての役割および社会における学識経験者の役割を適切に果たすための素養を培うため、「講究」を設置する。
- 専門分野に関わる特定の研究主題を設定し、これを深く追求して学位論文に取りまとめるため、「特殊研究」を設置する。

人材の養成及び教育研究上の目的

日々進歩する科学技術と変化の激しい社会情勢を念頭に、高度で幅広い理工学に関する理論と実践力を修得させて、学際的視野を持って応用力の涵養を図るとともに高い倫理観と国際性をそなえさせることによって、科学技術に立脚した課題の発見と多角的視野から解決策を導くことで社会貢献ができる人材の養成を目的とする。

□博士前期課程

理工学に関する高い専門性、語学力及び情報利活用能力を修得させることによって、学際的な分野への対応能力を含めた専門的深化により応用力を培うとともに倫理観と国際性をそなえさせ、これらの能力に裏付けられた課題発見力と解決力を活かして社会情勢の変化に迅速に対応することで、科学技術社会に幅広く貢献できる人材の養成を目的とする。

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）

□博士前期課程

高度な専門知識を学ぶとともに国際的に活躍できる語学力を養うことで研究能力を高め、これらの能力に裏付けられた課題発見力と解決力を活かして社会情勢の変化に迅速に対応することで、科学技術社会に幅広く貢献できる能力を身に付けさせることが教育の目標です。このため、入学を希望する学生に求めている資質と能力は、以下の項目を具備していることです。

- 総合理工学研究科の掲げる「教育の理念」と「教育の目標」へ共感
- 理工系専門学力の基礎を有し、多面的な視点からの論理的思考
- 未知な研究分野への強い関心とチャレンジ精神
- 技術者・研究者として必要な語学力と高度な倫理観

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

□博士前期課程

理工学に関する高い専門性、語学力及び情報利活用能力を修得させることによって、学際的な分野への対応能力を含めた専門的深化により応用力を培うとともに倫理観と国際性をそなえさせ、これらの能力に裏付けられた課題発見力と解決力を活かして社会情勢の変化に迅速に対応することで、科学技術社会に幅広く貢献できる人材を養成するため、次のように教育課程を編成する。

- 理工学に関する専門知識と実践力を国際社会の発展に役立てられるように、総合教養科目群及び総合基礎科目群を編成し、英語の語学能力や情報活用能力の他、国際感覚が身に付く科目を編成する。
- 社会構造の変化に迅速に対応できる幅広い理工学に関する高度な専門知識と実践力が身に付くように、各専攻において専門基礎科目群と専門科目群を編成し、専門基礎科目群の科目履修により専門的な基礎知識を、また、専門科目群の科目履修により実践的な力が身に付くように、編成する。
- 国際社会における理工学に関する課題を自らが発見し解決できる能力が身に付くように、各専攻において実習と特別研究を編成する。

□博士後期課程

学際的視野を持って自立して研究活動を行うのに必要な理工学に関する学識、研究能力、倫理観及び国際性を高度にそなえさせることによって、先端的な知識と技術を駆使して、社会からの要請に応えるための課題を設定し、その課題を着実に解決できるとともに、新しい領域を開拓できる人材を養成するため、次のように教育課程を編成する。

- 理工学に関する新たな知見をまとめて学問として専門知識を体系化できる能力が身に付くように、各専攻において講究科目群を編成する。
- 他研究・開発機関との技術交流を通じて、先端的な知識と技術を駆使し社会ニーズを意識しながら、着実に課題を解決するとともに新しい領域を開拓できる研究能力が身に付くように、各専攻において特殊研究科目群を編成し、他大学や企業との共同研究を推進する。

□博士後期課程

現代社会では、経済・社会・環境の3つの要素を考慮し、持続可能な社会開発が求められています。その開発のためには諸課題の解決を図る高度な研究能力が必要であり、さらには、新しい課題そして新しい領域を開拓する能力を身に付けることが求められています。このため、以下の項目に対して共有できる学生を求めます。

- 現代社会の抱える諸問題を認識し社会の発展に貢献する意欲
- 未解決課題に対応するために自らの能力を開発する力
- 地球的視野から様々な関係者と連携しつつ諸問題の解決に取り組む能力
- 指導的な役割を果たすために必要な実行力
- 研究活動に求められる適切な倫理観と行動特性を有していること。

修了認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

東京都市大学大学院は、本学の教育理念に基づき、所定の単位を取得し、以下の知識・能力等を修得した学生に対して修了を認定し、博士前期課程においては修士の学位を、博士後期課程においては博士の学位を授与します。

□博士前期課程

- 自らの専門に関する特定の問題に対して、課題の設定を適切に行い、解決方法を構想し、高度な専門知識を駆使して問題解決に取り組む実践的な研究能力を身に付けている。
- 国際社会において、修得した専門知識と自らの研究成果を活かして活躍できる実践的なコミュニケーション能力を身に付けている。
- 研究活動に求められる適切な倫理観と行動特性を有している。

□博士後期課程

- 自らの専門に関する高度な研究を遂行でき、研究成果を体系的にまとめる能力を身に付けている。
- 国際社会や他機関との連携を通じて、社会ニーズを意識しながら学術研究成果を導き、新しい価値創造に貢献できる能力を身に付けている。
- 適切な研究倫理面での配慮のもとで研究を遂行できる能力を身に付けている。

□博士後期課程

学際的視野を持って自立して研究活動を行うのに必要な理工学に関する学識、研究能力、倫理観及び国際性を高度にそなえさせることによって、先端的な知識と技術を駆使して、社会からの要請に応えるための課題を設定し、その課題を着実に解決できるとともに、新しい領域を開拓できる人材の養成を目的とする。

□博士前期課程

□博士後期課程

先端的な知識と技術を駆使し、社会からの要請に応えるための課題を設定し、その課題を着実に解決するとともに、新しい領域を開拓できる能力を養うことを教育の目標にしています。このため、入学を希望する学生に求めている資質と能力は、博士前期課程において、上記の4項目を十分に身に付けた上で、以下の4項目を具備していることです。

- 未開の知見を得るための研究活動に必要な幅広い専門学力
- 自立した研究者になるために、課題解決を目指す研究遂行の持続力
- 社会における指導的な役割を果たすために必要な実行力
- グローバルに活躍できるコミュニケーション能力の基礎

修了認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

□博士前期課程

所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文又は特定の課題についての研究成果等の審査及び最終試験に合格した者に、専攻に応じて修士（工学）又は修士（理学）の学位を与える。

- 理工学に関するより高度な専門知識と実践力を、国際社会発展のために役立てることのできる語学及び情報活用能力を身に付けている
- 社会構造の変化に迅速に対応できる幅広い理工学に関する高度な専門知識を有し、それを応用できる実践力を身に付けている
- 国際社会における理工学に関する課題を自らが発見し、解決できる能力を身に付けている

修了認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

□博士後期課程

所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査及び最終試験に合格した者に、専攻に応じて博士（工学）又は博士（理学）の学位を与える。

- 理工学に関する新たな研究によって得られた知見をまとめあげ、より深化した学問として専門知識を体系化できる能力を身に付けている
- 他研究・開発機関との技術交流を通じて、先端的な知識と技術を駆使し社会ニーズを意識しながら、着実に課題を解決するとともに新しい領域を開拓できる研究能力を身に付けている。

機械専攻

人材の養成及び教育研究上の目的

□博士前期課程
高度化・複雑化した技術開発に対応するための、俯瞰的な視野に立った創造的な研究を行い、工業が自然や人間社会に及ぼす影響を考慮し、機械に関連する専門知識を用いて技術的課題を解決する能力、物事を論理的に考え、それを記述・発言できる語学力、及びグローバル社会で活躍できるコミュニケーション能力を育成することを目的とする。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

□博士前期課程
論理的に物事を考え、記述し、発言できる能力、また、グローバルな世界で活躍できるコミュニケーション基礎能力を具備している。機械工学分野のエンジニアに必要な力学と機械設計工学を修得している。または、機械システム工学分野のエンジニアに必要な機械工学と、これに関連する電気電子工学、制御工学、情報工学などの基礎知識を具備している。数学、自然科学など理工学の知識に基づいて問題発見および問題解決を行うことのできる基礎的な実践力に加え、自らの論理的思考プロセスを他人に理解させるプレゼンテーション能力を具備している。

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

□博士前期課程
高度化・複雑化した技術開発に対応するための、俯瞰的な視野に立った創造的な研究を行い、工業が自然や人間社会に及ぼす影響を考慮し、機械に関連する専門知識を用いて技術的課題を解決する能力、物事を論理的に考え、それを記述・発言できる語学力、及びグローバル社会で活躍できるコミュニケーション能力をもつ人材を養成するため、次のように教育課程を編成する。
1. 社会・安全・法律・環境に関する教養や技術者倫理を修得し、グローバル化する社会が生み出す現実の問題に対して、理論と実践に基づいた適切な行動をとることができ、自らのキャリアを確立するため、総合教養科目群及び総合基礎科目群を編成する。
2. 機械系技術者に必要な高度な知識と専門技術を修得するため、機械工学や電気・電子工学等の分野を横断した技術のインテグレーションを構築できるように、専門基礎科目群及び専門科目群を編成する。
3. 機械系技術者が、業務の遂行に必要な問題発見能力および問題解決能力を修得し、社会が生み出す現実の問題に対応できる実践力を高めるため、専門科目群に機械実習を配置する。
4. コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を高め、機械系技術者としての自らのキャリアを確立するため、専門科目群に機械特別研究を配置する。

□博士後期課程
高度化・複雑化した技術開発に対応するための、俯瞰的な視野に立った創造的かつ高度な研究の実践を通じ、工業が自然や人間社会に及ぼす影響を考慮し、機械に関連する高い専門知識を用いて技術的課題を解決する能力、論理的思考力、考えを適切に表現できる語学力、及びグローバル社会で活躍できるコミュニケーション能力をもつ人材を養成するため、次のように教育課程を編成する。
1. 機械工学もしくは機械システム工学に関連する知識と技術を一層深化させ、高度な研究能力を身に付けるため、講究科目群を編成する。
2. 社会における諸問題を発見し、それらを解決する能力、ひいては新しい領域を開拓する能力を修得するため、特殊研究科目群を編成する。

□博士後期課程
高度化・複雑化した技術開発に対応するための、俯瞰的な視野に立った創造的かつ高度な研究の実践を通じ、工業が自然や人間社会に及ぼす影響を考慮し、機械に関連する高い専門知識を用いて技術的課題を解決する能力、論理的思考力、考えを適切に表現できる語学力、及びグローバル社会で活躍できるコミュニケーション能力を育成することを目的とする。

□博士後期課程
論理的思考力とコミュニケーション能力、主体的な探究心を持ち、専門的な内容を他者に理解させるプレゼンテーション能力を具備している。機械系エンジニアに必要な機械工学に関する四力学（機械力学、材料力学、流体力学、熱力学）、もしくは機械システム工学に関連する機械工学および電気電子工学、制御工学、情報工学について幅広い知識を具備している。

修了認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

□博士前期課程
所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文又は特定の課題についての研究成果等の審査及び最終試験に合格した者に、修士（工学）の学位を与える。
1. 幅広い教養と国際コミュニケーション能力を持ち、さらに、高い倫理観を持ちながら、グローバル化する社会の発展に貢献できる知識や能力を修得している。
2. 機械工学および機械システム工学に関する専門分野の高度な知識およびそれを実際に応用する実学に必要な深い専門的技術を修得している。
3. 実社会の問題を解決するための方法を提案し、理論的裏付けを持った実践による、問題発見能力、解決能力、ならびにコミュニケーション能力を用いて、実社会の要請に迅速に対応できると共に、機械技術者としての、自己の将来設計を構築することができる知識や能力を修得している。

□博士後期課程
所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査及び最終試験に合格した者に、博士（工学）の学位を与える。
1. 幅広い教養と国際コミュニケーション能力、高い倫理観を持ちながら、グローバル化する社会の発展に貢献できる知識や能力、機械工学もしくは機械システム工学に関する専門分野の高度な知識およびそれを実際に応用する実学に必要な深い専門的技術を身に付けている。
2. それらの能力を元に、高度な研究を自ら実践し、有益な成果を上げている。

人材の養成及び教育研究上の目的

□博士前期課程
電気電子、医用、応用化学の領域において、高度な専門知識と技術を修得し、実習や特別研究を通して実践的な経験を積むことにより、課題を発見し解決する能力および、社会の変化と多様性・国際性に対応する柔軟な思考力を身に付け、異分野間の融合による新しい産業分野の開拓、安全・安心・快適で持続可能な社会の発展に貢献できる研究者・技術者を育成することを目的とする。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

□博士前期課程
1. 電気電子工学、医用工学、応用化学の領域に関連の深い理工学分野の教養知識、研究者・技術者として必要な語学力、高度な倫理観を具備している。
2. 電気電子工学、医用工学、応用化学分野の基礎学力、多面的視点からの論理的思考を具備している。
3. 電気電子工学、医用工学、応用化学の領域での専門学力の基礎、未知の研究分野への強い関心とチャレンジ精神を具備している。
4. 電気電子工学、医用工学、応用化学の領域の専門学力を具備している。

□博士後期課程
電気電子、医用、応用化学の領域において、高度で先端的な専門知識と技術を修得し、課題を発見し着実に解決する能力および、社会の変化と多様性・国際性に対応する柔軟な思考力を身に付け、異分野間の融合による新しい産業分野の開拓、次世代エネルギー社会を視野に入れた安全・安心・快適で持続可能な社会の発展に貢献できる人材を育成することを目的とする。

□博士後期課程
1. 電気電子工学、医用工学、応用化学の領域に関連の深い理工学分野の教養知識、研究者・技術者として必要な語学力、高度な倫理観を具備している。
2. 電気電子工学、医用工学、応用化学分野の基礎学力、多面的視点からの論理的思考を具備している。
3. 電気電子工学、医用工学、応用化学の領域での専門学力の基礎、未知の研究分野への強い関心とチャレンジ精神を具備している。
4. 電気電子工学、医用工学、応用化学の領域の専門学力、研究遂行の持続力、指導的技術者に必要な実行力、国際的に活躍できるコミュニケーション能力の基礎を具備している。

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

□博士前期課程
電気電子、医用、応用化学の領域において、高度な専門知識と技術を修得し、実習や特別研究を通して実践的な経験を積むことにより、課題を発見し解決する能力および、社会の変化と多様性・国際性に対応する柔軟な思考力を身に付け、異分野間の融合による新しい産業分野の開拓、安全・安心・快適で持続可能な社会の発展に貢献できる研究者・技術者を養成するため、次のように教育課程を編成する。
1. 社会人として活躍できる能力の習得を目的とし、社会生活の基盤となる幅広い知識の修得のみならず、倫理観を持って責任ある行動を取るための意識、国内外の区別なく発揮できるコミュニケーション能力、他者と良好な関係を保ちながら協働する能力を身に付けることを目的とし、社会生活のベースとなる知識を学ぶ科目、グループワークや実習を取り入れた科目等を総合教養科目群及び総合基礎科目群に配置する。
2. 最先端の科学技術を身に付けた研究者・技術者としてふさわしい課題発見能力、課題解決能力、情報収集能力、基礎知識・技能の応用力を身に付け、自律的、計画的かつ忍耐強く目標に向かって行動すると共に、自らの持つ情報を適切な形で他者に伝達できる能力を身に付けることを目的とし、演習、実習、事例研究等具体的問題の解決に適宜取り入れた科目を専門基礎科目群及び専門科目群に配置する。
3. 最先端の科学技術について完全に理解すること、また先端技術を開拓してゆく基礎力を身に付けることを目的として、その基盤となる知識を学ぶと共に、それらの相互関係、最先端技術との関連性について学ぶための、専門科目群に電気・化学実習を配置する。
4. 最先端の科学技術について学ぶと共に、基礎的な知識の応用方法、最先端の研究を推進する技術を習得するための、専門科目群に電気・化学特別研究を配置する。

□博士後期課程
電気電子、医用、応用化学の領域において、高度で先端的な専門知識と技術を修得し、課題を発見し着実に解決する能力および、社会の変化と多様性・国際性に対応する柔軟な思考力を身に付け、異分野間の融合による新しい産業分野の開拓、次世代エネルギー社会を視野に入れた安全・安心・快適で持続可能な社会の発展に貢献できる人材を養成するため、次のように教育課程を編成する。
1. 社会の発展に貢献できる能力、社会生活の基盤となる幅広い知識の修得、倫理観を持って責任ある行動を取るための意識、国内外の区別なく発揮できるコミュニケーション能力、他者と良好な関係を保ちながら協働する能力を身に付けることを目的とし、社会ニーズに即した実践的研究を行う特殊研究科目群を編成する。
2. 最先端の科学技術を身に付けた研究者・技術者としてふさわしい課題発見能力、課題解決能力、情報収集能力、基礎知識・技能の応用力を身に付け、自律的、計画的かつ忍耐強く目標に向かって行動すると共に、自らの持つ情報を適切な形で他者に伝達できる能力を身に付けることを目的とし、具体的問題の解決に実践的に取り組む特殊研究科目群を編成する。
3. 最先端の科学技術について完全に理解すること、また先端技術を開拓してゆく基礎力を身に付けることを目的として、その基盤となる知識を学ぶと共に、それらの相互関係、最先端技術との関連性について学ぶため、講究科目群を編成する。
4. 最先端の科学技術について学ぶと共に、基礎的な知識の応用方法、最先端の研究を推進する技術を習得するため、講究科目群を編成する。

修了認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

□博士前期課程
所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文又は特定の課題についての研究成果等の審査及び最終試験に合格した者に、修士（工学）の学位を与える。
1. 電気電子工学、医用工学、応用化学の領域における技術者として、また社会人として活躍できる基本的な知識と倫理観を持ち、グローバル環境におけるコミュニケーション能力を含めた他者と協調しながら柔軟に仕事を進めてゆく能力を身に付けている。
2. 社会の発展に寄与する研究者・技術者にふさわしい、課題発見能力、課題解決能力、情報収集能力、基礎知識・技能の応用力、それらの能力を目標に向かって自律的、計画的かつ忍耐強く発揮してゆくことができる能力を身に付けている。さらに自らの持つ情報を適切に発信し、他者に正確かつ積極的に伝達してゆく能力を身に付けている。
3. 電気電子工学、医用工学、応用化学の最先端分野を開拓してゆく人材として、その基本的小および発展的知識および能力を身に付けており、それらの知識の相互関係や最先端分野との関連性について理解している。
4. 電気電子工学、医用工学、応用化学の最先端技術を駆使し、新しい最先端技術を開拓してゆくことができる能力を身に付けている。

□博士後期課程
所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査及び最終試験に合格した者に、博士（工学）の学位を与える。
1. 電気電子工学、医用工学、応用化学の領域における研究者・技術者として、社会の発展に貢献できる先端的な知識と倫理観を持ち、グローバル環境におけるコミュニケーション能力と、他者と協調しながら柔軟に仕事を進めてゆく能力を身に付けている。
2. 社会の発展に寄与する研究者・技術者にふさわしい、課題発見能力、課題解決能力、情報収集能力、基礎知識・技能の応用力、それらの能力を目標に向かって自律的、計画的かつ忍耐強く発揮してゆくことができる能力を身に付けている。さらに自らの持つ情報を適切に発信し、他者に正確かつ積極的に伝達してゆく能力を身に付けている。
3. 電気電子工学、医用工学、応用化学の最先端分野を開拓してゆく人材として、その基本的小および発展的知識および能力を身に付けており、それらの知識の相互関係や最先端分野との関連性について理解している。
4. 電気電子工学、医用工学、応用化学の最先端技術を駆使し、新しい最先端技術を開拓してゆくことができる能力を身に付けている。

共同原子力専攻

自然科学専攻

人材の養成及び教育研究上の目的

□博士前期課程
エネルギー安全保障や環境問題に大きな関わりを持つ原子力工学に携わる技術者、研究者としての教養と倫理観を持ち、スピードの速い環境の変化にも対応できる幅広い応用力を身につけ、グローバル化する社会において貢献できる人材を育成することを目的とする。

入学受入れの方針（アドミッションポリシー）

□博士前期課程
1. 総合理工学研究科の掲げる「教育の理念」と「教育の目標」への共感、理工系専門学力の基礎を有し、多面的な視点からの論理的思考、未知な研究分野への強い関心とチャレンジ精神、技術者・研究者として必要な語学力と高度な倫理観を具備している。
2. 大学院在籍の期間に、高度な専門知識を学ぶとともに、国際的に活躍できる語学力を養うこと、さらに柔軟な社会性を発揮して社会の構造変化に迅速に対応し、新たな課題を解決する能力を高めるために、入学時点において目標達成の決意と、これを達成する粘り強さを具備している。
3. 先端的な知識と技術を駆使し課題解決や新領域の開拓を行う力を養う上での、未開の知見を得るための調査、実験、解析を自ら計画し実践する実行力や他者/組織とのコミュニケーション力を具備している。

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

□博士前期課程
エネルギー安全保障や環境問題に大きな関わりを持つ原子力工学に携わる技術者、研究者としての教養と倫理観を持ち、スピードの速い環境の変化にも対応できる幅広い応用力を身につけ、グローバル化する社会において貢献できる人材を養成するため、次のように教育課程を編成する。
1. 早稲田大学との共同教育課程として、社会要請に即応した「関連分野知識の習得」や「他分野との融合」にも必要な基礎知識を身につけるために、多彩なカリキュラムを提供して、技術面のみならず、安全面、倫理面、リスク管理のもとに、技術的にも人間的にも高い能力を有する人材を育成するための教育課程を編成する。また、コミュニケーション能力を高め、原子力技術の専門家としての自己の将来設計を高めるための教育課程を編成する。
2. 原子力技術者として仕事を遂行する基礎力と実践力、実社会での課題を探求する問題発見・解決能力、並びに、実社会の複合的な問題を解決する能力を修得するための教育課程を編成する。
3. 原子力システム、原子力安全、放射線工学、放射線応用の基礎的な分野に加えて、これらの原子力と放射線の基幹技術および耐震技術・リスク評価学に関連する高度で専門的なカリキュラムを配置する。
4. 特に実社会の複合的な問題を学際的な視点または社会実装の観点から明らかにし、それらを解決する能力を修得するための教育課程を編成する。

□博士後期課程
エネルギー安全保障や環境問題に大きな関わりを持つ原子力工学分野に携わる研究者、技術者、もしくはそのリーダーとして、深い教養と高い倫理観を持ち、課題を発見し解決する能力、スピードの速い環境の変化にも対応できる柔軟性と幅広い応用力、そして論理的思考力と考えを適切に表現できる語学力を身につけ、グローバル化する社会において主体的に貢献できる人材を養成するため、次のように教育課程を編成する。
1. 早稲田大学との共同教育課程として、社会要請に即応した「関連分野知識の習得」や「他分野との融合」にも必要な基礎知識を身につけるために、多彩なカリキュラムを提供して、技術面のみならず、安全面、倫理面、リスク管理のもとに、技術的にも人間的にも高い能力を有する人材を育成するための教育課程を編成する。また、コミュニケーション能力を高め、原子力技術の専門家としての自己の将来設計を高めるための教育課程を編成する。
2. 原子力技術者として仕事を遂行する基礎力と実践力、実社会での課題を探求する問題発見・解決能力、並びに、実社会の複合的な問題を解決する能力を修得するための教育課程を編成する。
3. 原子力システム、原子力安全、放射線工学、放射線応用の基礎的な分野に加えて、これらの原子力と放射線の基幹技術および耐震技術・リスク評価学に関連する高度で専門的なカリキュラムを配置する。
4. 特に実社会の複合的な問題を学際的な視点または社会実装の観点から明らかにし、それらの解決に指導的な力を発揮する能力を修得するための教育課程を編成する。

□博士後期課程
エネルギー安全保障や環境問題に大きな関わりを持つ原子力工学分野に携わる研究者、技術者、もしくはそのリーダーとして、深い教養と高い倫理観を持ち、課題を発見し解決する能力、スピードの速い環境の変化にも対応できる柔軟性と幅広い応用力、そして論理的思考力と考えを適切に表現できる語学力を身につけ、グローバル化する社会において主体的に貢献できる人材を育成することを目的とする。

□博士後期課程
1. 原子力工学に関する先端的な知識と技術を駆使し、着実に課題を解決するとともに、新しい領域を開拓できる能力を養うことを目標としている。
2. 入学者は、これを達成するための論理的思考力と主体的な探究心を持つこと、さらに国際社会が抱えるエネルギー・環境分野の問題解決や、現時点で存在しない新たな工学応用領域を切り開く気概と実践力を具備している。
3. 優れたコミュニケーション能力と語学力に加え、原子力工学故の高い安全意識と倫理観を具備している。

修了認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

□博士前期課程
所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査及び最終試験に合格した者に、修士（工学）又は修士（理学）の学位を与える。
1. エネルギー安全保障や環境問題に大きな関わりを持つ原子力工学分野に携わる研究者、技術者、もしくはそのリーダーとして、深い教養と高い倫理観を持ち、スピードの速い環境の変化にも対応できる柔軟性と幅広い応用力を身につけ、グローバル化する社会において主体的に貢献できる。
2. 原子力および放射線にかかわる専門分野の高度な知識と技術を習得し、実際の応用を考慮した深い専門技術を身につけている。
3. 原子力および放射線の分野において、修得した高度な専門知識と研究能力を用いて問題点や課題を明らかにするとともに、これらの具体的な解決方法を見出し、それを自らの力で計画的に解決できる能力を有している。
4. 原子力および放射線の分野における専門分野の高度な知識と、修士（工学）の学位の授与を受ける者は、実社会に応用するための技術を、また、修士（理学）の学位の授与を受ける者は、学際的な理論展開力を身につけている。

□博士後期課程
所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査及び最終試験に合格した者に、博士（工学）又は博士（理学）の学位を与える。
1. エネルギー安全保障や環境問題に大きな関わりを持つ原子力工学分野に携わる研究者、技術者、もしくはそのリーダーとして、深い教養と高い倫理観を持ち、スピードの速い環境の変化にも対応できる柔軟性と幅広い応用力を身につけ、グローバル化する社会において主体的に貢献できる。
2. 原子力および放射線にかかわる専門分野の高度な知識と技術を習得し、実際の応用を考慮した深い専門技術を身につけている。
3. 原子力および放射線の分野において、修得した高度な専門知識と研究能力を用いて問題点や課題を明らかにするとともに、これらの具体的な解決方法を見出し、それを自らの力で計画的に解決できる能力を有している。
4. 原子力および放射線の分野における専門分野の高度な知識と、博士（工学）の学位の授与を受ける者は、実社会に応用するための技術を、また、博士（理学）の学位の授与を受ける者は、学際的な理論展開力を身につけ、新たな問題点や課題を明らかにするとともに、これらの具体的な解決方法を見出し、それを自らの力で計画的に解決できるだけでなく、指導的な力を発揮できる能力を有している。

人材の養成及び教育研究上の目的

□博士前期課程
物理学、化学、生物学、地球科学、天文学、数学等の基礎研究において、専門的な研究能力を有し、幅広い応用力と実践力を身につけ自然界の普遍的な真理を探求することにより基礎研究の進歩に寄与するとともに、学術研究を通じて涵養された広い視野に立つ精深な学識と健全な判断力を活かして科学と社会の架け橋となり、社会の発展と人類の福祉に貢献する人材を養成することを目的とする。

入学受入れの方針（アドミッションポリシー）

□博士前期課程
1. 物理学、化学、生物学、地球科学、天文学、数学等の領域における基礎知識を具備している。
2. 複雑な自然現象から未解明の事象を発見し、適切な研究手法を提案できる論理的な思考力と実践力を具備している。
3. 他者の意見を正しく理解し、自分の意見をわかりやすく表現する能力を具備している。
4. 国際化した現代社会における研究者としての見識と語学力を具備している。

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

□博士前期課程
物理学、化学、生物学、地球科学、天文学、数学等の基礎研究において、専門的な研究能力を有し、幅広い応用力と実践力を身につけ自然界の普遍的な真理を探求することにより基礎研究の進歩に寄与するとともに、学術研究を通じて涵養された広い視野に立つ精深な学識と健全な判断力を活かして科学と社会の架け橋となり、社会の発展と人類の福祉に貢献する人材を養成するため、次のように教育課程を編成する。
1. 物理学、化学、生物学、地球科学、天文学、数学等の領域における専門知識と研究手法が習得できるように、専門基礎科目群を編成する。
2. 自然科学全般を体系的に理解して俯瞰する能力、複雑な自然現象を論理的に分析し正確に説明する能力などが修得できるように、専門科目群を編成する。
3. 文化的・社会的背景を異にする他者と意思疎通できる普遍的な教養、理解力、思考力、表現力、語学力を習得させ、国際化と多様化が進展する現代社会における社会人としての倫理観と判断力が身につくように、総合教養科目群及び総合基礎科目群を編成する。

□博士後期課程
物理学、化学、生物学、地球科学、天文学、数学等の基礎研究において、自立した研究者に必要な高度な研究能力を有し、自然界の普遍的な真理を探求することにより基礎研究の進歩に寄与するとともに、学術研究を通じて涵養された豊かな学識と健全な判断力を活かして自然科学における基礎研究の強化に主導的な役割を果たし、社会の発展と人類の福祉に貢献する人材を養成するため、次のように教育課程を編成する。
1. 物理学、化学、生物学、地球科学、天文学、数学等の領域における専門知識と研究手法が習得できるように講究科目群を編成する。
2. 自然科学全般を俯瞰し、他分野の研究者と共に共同研究や学際的研究を立案し主導的に遂行する能力が習得できるように特殊研究科目群を編成する。
3. 文化的・社会的背景を異にする他者と意思疎通できる普遍的な教養、理解力、思考力、表現力、語学力を習得させ、国際化と多様化が進展する現代社会における研究者としての倫理観と判断力が涵養できるように講究科目群を編成する。

□博士後期課程
物理学、化学、生物学、地球科学、天文学、数学等の基礎研究において、自立した研究者に必要な高度な研究能力を有し、自然界の普遍的な真理を探求することにより基礎研究の進歩に寄与するとともに、学術研究を通じて涵養された豊かな学識と健全な判断力を活かして自然科学における基礎研究の強化に主導的な役割を果たし、社会の発展と人類の福祉に貢献する人材を養成することを目的とする。

□博士後期課程
1. 物理学、化学、生物学、地球科学、天文学、数学等の領域における専門知識と研究手法を具備している。
2. 複雑な自然現象から未解明の事象を発見し、適切な研究手法を提案できる論理的な思考力、実現可能な研究計画を作成し着実に遂行する能力、研究成果をもとに共同研究や学際的研究を立案する能力などを具備している。
3. 他者の意見を正しく理解し、自分の意見をわかりやすく表現する能力を具備している。
4. 国際化した現代社会における研究者としての見識と語学力を具備している。

修了認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

□博士前期課程
所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文又は特定の課題についての研究成果等の審査及び最終試験に合格した者に、修士（理学）の学位を与える。
1. 自然科学の基礎研究に関する専門知識と研究手法を活用し、自然界の普遍的な真理を探求する能力を修得している。
2. 他分野の研究者と交流して学際的研究に貢献する能力、複雑な自然現象を論理的に分析し正確に説明する能力などを修得している。
3. 国際化と多様化が進展する現在社会において、他者と円滑に意思疎通ができる普遍的な教養、社会人としての高い倫理観と健全な判断力などを有し、社会の発展と人類の福祉に貢献する能力を修得している。

□博士後期課程
所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査及び最終試験に合格した者に、博士（理学）の学位を与える。
1. 自然科学の基礎研究に関する専門知識と研究手法を活用して自然界の普遍的な真理を探求し、新しい研究領域を開拓するための研究計画を作成して遂行する能力を身につけている。
2. 先端的な知識と技術を駆使して他分野の研究者と交流し、地球規模の創造的研究を主導する能力、基礎研究の成果を学際的に展開させる能力を身につけている。
3. 国際化と多様化が進展する現在社会において、科学技術の振興に主導的な役割を果たす研究者としての高い倫理観と健全な判断力を有し、社会の発展と人類の福祉に貢献する能力を身につけている。

	<p>人材の養成及び教育研究上の目的 □博士前期課程 建築都市デザイン専攻に係わる分野は理工学だけではなく社会学、経済学、歴史学など多岐にわたるため、広範かつ多面的な視野を持ち、広く社会に貢献できる人材の養成を目的とする。修了後の就職業種は、公務員、ゼネコン、設計事務所、大学など多岐に渡る。こうした広範な業種における高い専門性を有し、地球的視野を持った技術者の育成を目的とする。</p>	<p>□博士後期課程 高度な専門知識と技術を有し、さらに高い倫理観および責任感を兼ね備えることにより、建築都市デザイン専攻に係わる分野にて活躍できる人材の養成を目的とする。さらに、先端的な知識と技術を駆使し社会ニーズを意識しながら、着実に課題を解決するとともに新しい領域を開拓でき、国際的にリーダーシップを発揮できる人材を養成することを目的とする。</p>
	<p>入学者受入れの方針（アドミッションポリシー） □博士前期課程 1. 幅広い教養をもって国際的視野で、社会へ貢献したいと考えている人材。実務上の対応能力はもとより、人間としての倫理をより高めたいと考えている人材。 2. 建築・都市の文化芸術的側面と理工学的側面を多角的、総合的に理解したいと考えている人材。 3. 建築・都市に係わる総合的な知識、専門的能力、および問題解決に向けての応用能力を高め、建築家・建築技術者・都市工学技術者としての総合的な設計能力を修得したいと考えている人材。 4. 建築や都市の文化、技術の発展に寄与し、社会の発展に貢献できる建築家・建築技術者・都市工学技術者になりたいと希望する人材。</p>	<p>□博士後期課程 1. 建築都市デザイン専攻に関する未開の知見を得るための研究活動に必要な幅広い専門学力を具備している。 2. 建築都市デザイン専攻における自立した研究者になるために、課題解決を目指す研究遂行の持続力を具備している。 3. 建築・都市に関わる分野において指導的な役割を果たすために必要な実行力を具備している。 4. 建築・都市に関わる分野において国際的に活躍できるコミュニケーション能力の基礎を具備している。</p>
	<p>教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー） □博士前期課程 建築都市デザイン専攻に関わる分野は理工学だけではなく社会学、経済学、歴史学など多岐にわたるため、広範かつ多面的な視野を持ち、広く社会に貢献できる人材の養成を目的とする。修了後の就職業種は、公務員、ゼネコン、設計事務所、大学など多岐に渡る。こうした広範な業種における高い専門性を有し、地球的視野を持った技術者を養成するため、次のように教育課程を編成する。 1. 文化・社会・環境などの教養や技術者倫理を修得し、国際的に活躍できる語学力と国際コミュニケーション能力を育成するため、総合教養科目群及び総合基礎科目群を編成する。 2. 理工学全般に共通する知識・能力（実行、思考、協働など）、ならびに、深い専門的知識・能力を修得するため、専門基礎科目群及び専門科目群を編成する。 3. 建築家・建築技術者・都市工学技術者として仕事を遂行するための専門的能力と総合的な設計能力、ならびに、実社会の複合的な問題を解決する能力を修得するため、専門科目群に建築都市デザイン実習を配置する。 4. 実務におけるマネジメント能力およびコミュニケーション能力を育成し、専門家としての自己のキャリアを確立し、将来設計を高めるため、専門科目群に建築都市デザイン特別研究を配置する。</p> <p>□博士後期課程 高度な専門知識と技術を有し、さらに高い倫理観および責任感を兼ね備えることにより、建築都市デザイン専攻に関わる分野にて活躍できる人材の養成を目的とする。さらに、先端的な知識と技術を駆使し社会ニーズを意識しながら、着実に課題を解決するとともに新しい領域を開拓でき、国際的にリーダーシップを発揮できる人材を養成するため、次のように教育課程を編成する。 1. 建築都市デザイン専攻に関する新たな知見をまとめて学問として専門知識を体系化できる能力が身に付くように、講究科目群を編成する。 2. 建築・都市に関わる分野における自立した研究活動を行うために必要な深い学術的な知識が身に付くように、講究科目群を編成する。 3. 建築都市デザイン専攻において修得した高度な専門知識と技術をもとに、国際的に活躍できる能力が身に付くように、特殊研究科目群を編成する。</p>	<p>修了認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー） □博士前期課程 所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文又は特定の課題についての研究成果等の審査及び最終試験に合格した者に、修士（工学）の学位を与える。 1. 幅広い教養と国際コミュニケーション能力を持ち、社会の発展に貢献でき、説明責任を果たすなどの実務上の対応能力や人間としての倫理をより高めることができる総合的な知識や応用能力を修得している。 2. 建築・都市の文化芸術的側面と理工学的側面を多角的、総合的に理解し、理工学全般で必要な基礎学力を修得している。 3. 建築・都市に係わる総合的な知識、専門的能力、および問題解決に向けての応用能力を修得し、建築家・建築技術者・都市工学技術者としての総合的な設計能力を修得している。 4. 生涯にわたって自主的に学び続け、建築や都市の文化、技術の発展に寄与し、社会の発展に貢献できる建築家・建築技術者・都市工学技術者としてのマネジメント能力、コミュニケーション能力を修得している。</p> <p>□博士後期課程 所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査及び最終試験に合格した者に、博士（工学）の学位を与える。 1. 建築都市デザイン専攻に関する新たな研究によって得られた知見をまとめあげ、より深化した学問として専門知識を体系化できる能力を身に付けている。 2. 建築都市デザイン専攻に関する研究者とし、自立して研究活動を行う能力を身に付けている。 3. 建築・都市に関わる分野における先端的な知識と技術を駆使し社会ニーズを意識しながら、着実に課題を解決するとともに新しい領域を開拓できる研究能力を身に付けている。 4. 建築都市デザイン専攻において修得した高度な専門知識と技術をもとに、国際的に活躍できる能力を身に付けている。</p>
	<p>人材の養成及び教育研究上の目的 □博士前期課程 高い専門学力と語学力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力なども習得し、情報工学およびシステム情報工学に関する技術・能力を身に付け、様々なシステムに内在する技術課題を発見し、解決方法を見出す問題解決能力を有する技術者の養成を目的とする。</p>	<p>□博士後期課程 高度情報化社会を支える技術である情報工学およびシステム情報工学に関する技術・能力を身に付け、情報を分析・モデル化し、そのモデルを活用して新たなシステムを創出し効率的に運用できる能力を有する技術者の養成を目的とする。</p>
	<p>入学者受入れの方針（アドミッションポリシー） □博士前期課程 1. 情報分野の専門知識を学ぶための基礎知識を有し、それに基づいた論理的思考力を具備している。 2. 未知の情報分野に果敢に挑む研究意欲を有し、多面的観点から客観的に評価できる実践的な問題解決力を具備している。 3. 高い倫理観及び国際的な視野から研究・技術開発を進めるために必要な語学力・文章化能力を具備している。</p>	<p>□博士後期課程 1. 論理的思考力と知的好奇心を持ち、自ら進んで専門分野とその関連する分野を学ぶ探究心を具備している。 2. 専門分野とその関連する分野について、博士前期課程修了程度より優れた研究能力を持ち、さらに、自ら研究を立案・計画・遂行できる能力を具備している。</p>
	<p>教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー） □博士前期課程 高い専門知識とその応用能力、語学力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力なども修得し、情報工学およびシステム情報工学に関する技術・能力を身に付け、様々なシステムに内在する技術課題を発見し、解決方法を見出す問題解決能力を有する技術者を養成するため、次のように教育課程を編成する。 1. 高度な専門知識と応用能力を修得するため、専門基礎科目群及び専門科目群を編成する。 2. 複雑な課題に対して広い視野から、課題への挑戦・解決能力を修得するため、専門科目群に情報実習を配置する。 3. 研究成果をまとめ、ディスカッション、分析、プレゼンテーションできる能力を修得するため、専門科目群に情報特別研究を配置する。 4. グローバル化する社会において国際人としての専門性と倫理性を修得するため、総合教養科目群及び総合基礎科目群を編成する。</p> <p>□博士後期課程 高度情報化社会を支える技術である情報工学およびシステム情報工学に関する技術・能力を身に付け、情報を分析・モデル化し、そのモデルを活用して新たなシステムを創出し効率的に運用できる能力を有する国際的にリーダーシップを発揮できる技術者を養成するため、次のように教育課程を編成する。 1. 高度な専門知識を持ち、自ら課題を発見し、自主的・総合的に学習・研究して解決する能力を修得するため、講究科目群を編成する。 2. 情報社会における諸課題の探求・解決へ自主的・持続的に応用できる能力を身に付けるため、特殊研究科目群を編成する。</p>	<p>修了認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー） □博士前期課程 所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文又は特定の課題についての研究成果等の審査及び最終試験に合格した者に、修士（工学）の学位を与える。 1. 専門分野の高度な知識と技術を有し、問題点や課題を発見する能力や、具体的解決方法を見出す問題解決能力を身に付けている。 2. 専門知識や技術、問題発見・解決能力を用いて、実社会の具体的な課題や問題に対して活用・応用できる能力を身に付けている。 3. グローバル化する社会において技術者として高い倫理観を持ち自律的に行動できる能力を身に付けている。</p> <p>□博士後期課程 所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査及び最終試験に合格した者に、博士（工学）の学位を与える。 1. 情報工学に関する専門分野において自立した研究活動を行い、新しい領域を開拓して社会に貢献できる能力を身に付けている。 2. 柔軟な発想と多角的視点を持ち、社会の多様なニーズに対応するための専門技術応用能力を身に付けている。</p>

人材の養成及び教育研究上の目的

環境、情報、都市生活に関わる高度な教育と社会的要請に応える研究の実践を通して、複雑化する世界や地域の中から課題を的確に発見し解決するために、自然、数理及び社会科学的分析力と洞察力を養い、多様な利害関係者と連携しつつ多角的に探究し、新たな価値と豊かな社会を創造することができる人材の養成を目的とする。

□博士前期課程

環境、情報、都市生活に関わる高度な教育と社会的要請に応える研究の実践を通して、複雑化する世界や地域に生起する様々な事象の中から課題を的確に発見し、秀でた専門性を活かして課題の解決に挑戦するとともに、国際社会で活躍できる実践的な能力を養い、新たな価値と豊かな社会の創造に貢献できる人材の養成を目的とする。

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）

□博士前期課程

現代社会では、社会・経済の変化と先端技術の普及に伴い、個人や家族などの小さいスケールから、企業や地域社会、都市や国家や地球全体等の大きなスケールまで、様々な課題が複雑に絡み合う形で、分野横断的に表れてきています。そこで、持続可能な社会の存続に向けて、従来の専門分野にとらわれずに、横断的かつ総合的に問題の解決をはかることが求められています。

【人材の養成及び教育研究上の目的】

環境情報学研究科 博士前期（修士）課程では、環境、情報、都市生活に関わる諸問題に具体的な問題意識を持ち、生活する人々の立場にたつて課題の解決に取り組める人材の養成を目指しています。このため、以下の項目を私達と共有できる学生の入学を求めます。

【求める人物像】

1. 本研究科の掲げる教育理念および目標への共感
2. 現代の日本及び国際社会に対する問題意識
3. 国際的、未来的、学際的な視点
4. 問題の解決に対する実践的取り組みへの意欲
5. 他者とのコミュニケーション力
6. 世界の持続可能な発展に寄与する人材及び研究者として持つべき倫理

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

□博士前期課程

〔必修及び研究科目〕

環境、情報、都市生活に関する諸問題の解決に必要な科学的思考、調査・分析・評価能力を涵養するため、学生は研鑽を積みたいと考える領域のいずれかの教員の研究室に所属し、その教員からの直接指導のもとで「文献研究・演習」、「特別研究」を履修する。

〔領域ごとの授業科目〕

環境、情報、都市生活に関する特定領域について、分野横断的な幅広い知識と分野ごとの深い知識の両方を身に付けた人材を育成するため、「専門基礎科目」および領域ごとの「専門科目」を設置するとともに、複数領域の単位修得を可能とする。

〔共通科目〕

環境情報学専攻及び都市生活学専攻では、国際社会で実践的に活躍できる人材を育成するため、英語によるアカデミックライティングやプレゼンテーション能力等を養うための英語科目を共通科目として設置する。また、国際学会での発表や国際ジャーナルへの投稿等を奨励する。

〔連携外国大学による専門科目〕

東京都市大学・エディスコローワン大学国際連携環境融合科学専攻では、国際社会において環境科学領域で実践的に活躍できる人材を育成するため、連携外国大学が提供する環境科学に関する専門科目を履修する。さらに、連携外国大学教員からの直接指導による「Postgraduate Science Project」を履修して、世界で通用する専門力を修得する。

□博士後期課程

〔講究〕

学生それぞれが、学位論文を取りまとめて行くプロセスのなかで、環境、情報、都市生活に係わる先端的知識を、担当教員からの指導を通して獲得する。また、学生が修了後に教育者または学識経験者としての社会的役割を果たすことを想定し、学識を教授するために必要な能力を培う機会を設ける。

〔特殊研究〕

学生が研鑽を積みたいと考える領域のいずれかの教員の研究室に所属し、論文執筆の指導を受けながら研究を構想する。その後、特定の研究テーマを設定し、そのテーマに関わる主たる担当教員から指導を受けて研究を遂行し、学位論文をとりまとめる。また、このプロセスにおいて、学期ごとに研究科における発表の機会を設け、研究科在籍の全教員からの助言を受ける機会を確保する。

□博士後期課程

環境、情報、都市生活に関わる高度な教育と社会的要請に応える研究の実践を通して、グローバル化と技術革新に対応した幅広い知見、価値創造の方法論を先導する研究開発力を有するとともに、科学的思考を通して現代社会を洞察する力を養い、学問の新時代を切り拓く構想力と卓越した専門能力を併せ持つ人材の養成を目的とする。

□博士後期課程

近年のテクノロジーの発展は、都市化と高度情報化をもたらす一方、国内外を問わず、また企業活動・社会活動など幅広い分野を横断する形で、人間環境に関わる諸問題を多様化させています。環境、情報、都市生活に関わる領域は極めて広範であり、関係する従来の学問領域も多様です。これらの諸問題を解決し、人類社会をより豊かに発展させていくためには、従来の縦割りの学問体系・枠組みを超えて、それらをいわば横糸で通す形で解決策を紡ぎ出す学際的な意識を持った研究が必要です。

【人材の養成及び教育研究上の目的】

環境情報学研究科博士後期課程では、環境、情報、都市生活に関わる諸問題に対する深い洞察力と、新たな研究領域の開拓に取り組む意欲を持ち、学際的な広い視野に立つて、高度な研究能力と学識を教授する能力を身につけた人材の養成を目指しています。

【求める人物像】

環境情報学研究科博士後期課程では、このような現代社会の抱える諸問題に対し明確な意識を持ち、持続可能な社会を維持するために必要な環境、情報、都市生活に関わる諸問題の解決に取り組み、新たな学問領域の開拓に意欲を持つ学生を求めます。

修了認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

□博士前期課程

〔専門知識・応用力〕

環境、情報、都市生活に関する特定及び世界共通の課題について深く考察し、実践的な問題解決又は持続可能社会の構築に寄与するための専門知識や研究能力を身につけた者

〔分析力・構想力〕

現代の日本及び国際社会が直面する環境、情報、都市生活に関する諸問題に対する科学的思考、調査・分析・評価を通して解決方法を構想できる能力を身につけた者

〔研究倫理〕

適切な研究倫理と多様性に配慮しつつ、研究を続ける資質と研究を発展させる可能性がある者と認められる者

〔語学力〕

国際社会に貢献できる素質を持ち、責任感を持って、環境、情報、都市生活の諸問題における研究と実務を発展させる可能性がある者と認められる者

□博士後期課程

〔高度な研究能力〕

環境、情報、都市生活に関する高度な研究を遂行するとともに、研究の成果を体系的にまとめあげることで、実践的な問題解決に資する専門知識と知の発展に貢献する能力を身につけた者

〔学際的な広い視座〕

環境、情報、都市生活に関連する多様な事象および学術研究成果を俯瞰し、それらを専門知識と結びつけて、新たな価値創造に貢献できる能力を身につけた者

〔研究倫理〕

適切な研究倫理面での配慮のもとに研究を続ける資質と高度な研究を発展させる可能性がある者と認められる者

環境情報学研究科

環境情報学専攻

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

□博士前期課程

[求める人物像]

本専攻では、環境マネジメント、コミュニケーション環境、情報システム、地域・都市環境のいずれかの領域に関心を持ち、次の能力を有する学生の入学を希望します。

1. 選択する領域での研究に必要な学部卒業レベルの基礎学力を有していること。（ただし環境及び情報に関する科目を履修していることは必要条件ではありません）。
2. 講義を受講し、グローバルに研究を展開するうえで必要な語学力。
3. 環境あるいは情報に関し、解決すべき課題に対して具体的な問題意識を持っており、それを他者に平易に説明できること。
このような人材を求めるために、「一般選抜（日本語）」「一般選抜（英語）」（英語による指導法を出願前に相談の上、審査書類を作成）では筆記試験と面接からなる入学試験を実施します。また、社会、および、海外から広く人材を受け入れるために筆記試験を免除した「社会人選抜」（2年以上の実務経験が必要）を設けています。

□博士後期課程

[求める人物像]

本専攻では、環境あるいは情報のいずれかの領域に関心を持ち、次の能力を有する学生の入学を希望します。

1. 選択する領域での研究に必要な博士前期課程修了レベルの専門知識や能力を有していること。
2. 講義を受講し、グローバルに研究を展開するうえで必要な語学力。
3. 環境あるいは情報に関し、解決すべき課題に対して具体的な問題意識を持っており、それを他者に平易に説明できること。
このような人材を求めるために、「一般選抜（日本語）」「一般選抜（英語）」（英語による指導法を出願前に相談の上、審査書類を作成）では筆記試験と面接からなる入学試験を実施します。また、社会、および、海外から広く人材を受け入れるために筆記試験を免除した「社会人選抜」（2年以上の実務経験が必要）を設けています。

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

□博士前期課程

[必修科目]

環境あるいは情報に関する諸問題の解決に必要な科学的思考、調査・分析・評価能力を涵養するため、学生は研鑽を積みたいと考える領域のいずれかの教員の研究室に所属し、その教員からの直接指導のもとで「文献研究・演習」、「特別研究」を履修する。

[領域ごとの授業科目]

環境あるいは情報に関する特定領域について、深い知識と分野横断的な幅広い知識の両方を身につけた人材を育成するため、「専門基礎科目」と領域ごとの「専門科目」を設置するとともに、複数領域の単位修得を可能とする。

[共通科目]

国際社会で実践的に活躍できる人材を育成するため、英語によるアカデミックライティングやプレゼンテーション能力等を養うための英語科目を共通科目として設置する。また、国際学会での発表や国際ジャーナルへの投稿等を奨励する。

□博士後期課程

[研究・教育力の高質化]

高度な研究を遂行するために必要な方法論や、環境あるいは情報に関する諸問題の実践的な解決能力を養うとともに、学識を教授するために必要な能力を培うため、「環境情報学講究」を設置する。

[新たな知の発展]

環境あるいは情報に係わる特定の研究テーマを設定したうえで、高度な研究方法を駆使して研究を遂行し、その成果を独自性と一貫性のある博士論文にまとめ上げることで、自立した研究者として新しい領域を開拓できる研究能力が身につくように「環境情報学特殊研究」を設置する。

修了認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

□博士前期課程

[専門知識・応用力]

環境あるいは情報に関する特定の問題について深く考察し、専門知識や能力を身につけた者

[分析力・構想力]

現代社会が直面する環境あるいは情報に関する諸問題に対する科学的思考、調査・分析・評価を通して解決方法を構想できる能力、計画策定能力、政策提言能力を身につけた者

[語学力]

国際社会に貢献できる素質を持ち、責任感を持って、環境あるいは情報における研究と実務を進展させる可能性がある者と認められる者

[研究倫理]

適切な研究倫理面での配慮のもとに研究を続ける資質と研究を進展させる可能性がある者と認められる者

□博士後期課程

[高度な研究能力]

環境あるいは情報に関する高度な研究を遂行するとともに、研究の成果を体系的にまとめあげることで、実践的な問題解決に資する専門知識と知の発展に貢献する能力を身につけた者

[学際的な広い視座]

環境あるいは情報に関連する多様な事象および学術研究成果を俯瞰し、それらを環境情報学の専門知識と結びつけて、新たな価値創造に貢献できる能力を身につけた者

[研究倫理]

適切な研究倫理面での配慮のもとに研究を続ける資質と高度な研究を進展させる可能性がある者と認められる者

※環境情報学研究科環境情報学専攻学位授与資格認定における審査基準も参照のこと。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

□博士前期課程

[求める人物像]

1. 本研究科の掲げる教育理念及び目標への共感
2. 現代の国際社会における問題意識
3. 国際的、未来的、学際的な視点
4. 問題の解決に対する実践的取り組みへの意欲
5. 他者とのコミュニケーション力
6. 世界の持続可能な発展に寄与する人材として持つべき倫理

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

□博士前期課程

[研究科目]

環境、情報、都市生活に関する諸問題の解決に必要な科学的思考、調査・分析・評価能力を涵養するため、いずれかの教員の研究室に所属し、本学教員の直接指導のもとで「文献研究・演習」、「特別研究」を履修する。

[領域ごとの授業科目]

環境、情報、都市生活に関する特定領域について、分野横断的な幅広い知識と分野ごとの深い知識の両方を身に付けた人材を育成するため、領域ごとに「専門科目」を設置し、複数領域の単位修得を可能とする。

[連携外国大学による専門科目]

国際社会において環境科学領域で実践的に活躍できる人材を育成するため、連携外国大学が提供する環境科学に関する専門科目を履修する。さらに、連携外国大学教員からの直接指導による「Postgraduate Science Project」を履修して、世界で通用する専門力を修得する。

修了認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

□博士前期課程

所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文又は特定の課題についての研究成果等の審査及び最終試験に合格した者に、修士（環境学）の学位を与える。

[専門知識・応用力]

環境、情報、都市生活に関する世界の共通課題について深く考察し、持続可能社会の構築に寄与するための専門知識と研究能力を身につけた者

[分析力・構想力]

現代の国際社会が直面する環境、情報、都市生活に関する諸問題に対する科学的思考、調査・分析・評価を通して解決方法を構想し、提案できる能力を身につけた者

[研究倫理]

適切な研究倫理と多様性に配慮しつつ、研究を継続して実施、発展させる熱意と資質があると認められる者

東京都市大学・エディンスコーワン大学
国際連携環境融合科学専攻

環境情報学研究科

環境情報学研究所

都市生活学専攻

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

□博士前期課程

〔人材養成及び教育研究上の目的〕

都市に生起する様々な事象の中から課題を発見し、専門的な知識と分析力をもってこれらを深く考察し、「価値ある都市生活」の創造に結び付く実践的な解決方法を構想できる専門能力を身につけた人材を養成することを目的としています。

〔求める人物像〕

1. 都市に関心を持ち、「価値ある都市生活」の創造に係わる研究や事業を通じて社会に貢献したいと望む人
2. 学部卒業レベルの基礎学力を有し、論理的な思考ができ、新規の発見、有用な創意工夫又は独創的な創作に意欲を有する人
3. 論文の読解とコミュニケーションが可能な英語力を有する人
4. 研究者として適切な倫理観を有する人

□博士後期課程

〔人材養成及び教育研究上の目的〕

現代社会における都市と都市生活の価値創造を分野横断的に探究する都市生活学において、高度な分析能力、グローバル化と技術革新に対応した幅広い知見、価値創造の方法論を先導する研究開発力を有するとともに、都市生活の新時代を切り開く構想力と高度な専門能を併せ持つ人材能力を担うことのできる人材を育成することを目的としています。

〔求める人物像〕

1. 都市に深い関心を持ち「価値ある都市生活」の創造に係わる卓越した研究や独創的な事業を通じて社会に貢献したいと望む人
2. 博士前期（修士）課程修了レベルの専門知識と研究能力を有し、学際的な発想を持ち新しい研究領域の開拓に向かう意欲を有する人
3. 国外の研究者との研究交流と論文執筆が可能な英語力を有する人
4. 研究者として適切な倫理観を有する人

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

□博士前期課程

〔必修科目〕

専門知識を応用し、都市社会が直面する諸問題の解決を図り、又は豊かな都市生活を創造するため、専門分野の「文献研究・演習」「特別研究」を履修する。

〔専門知識を高める科目〕

都市生活学の専門4分野について、特定分野の深い知識と分野横断的な幅広い知識の両方を身につけた人材を育成するため、「専門基礎科目」と4分野の「専門科目」を設置するとともに、複数分野を履修する。

〔共通科目〕

国際社会で実践的に活躍できる人材を育成するため、英語によるアカデミックライティングやプレゼンテーション能力等を養うための英語科目を共通科目として設置する。また、国際学会での発表や国際ジャーナルへの投稿等を奨励する。

□博士後期課程

〔研究・教育力の高質化〕

高度な研究に用いられる多様な方法論を習得しつつ、都市社会に生起する事象を多角的・学際的に捉える視座と本質を見抜く洞察力を養うとともに、学識を教授するために必要な能力を培うため、「都市生活学講究」を設置する。

〔新たな知の発展〕

自立した研究者を目指して、都市と都市生活に係わる特定の研究テーマを設定し、高度な研究方法を駆使して研究を遂行し、成果を独自性と一貫性のある博士論文にまとめ上げるとともに、このプロセスを通じて新しい領域を開拓できる研究能力が身につくように「都市生活学特殊研究」を設置する。

修了認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

□博士前期課程

〔専門知識・応用力〕

都市生活領域に関する特定の問題を深く考察し、実践的な問題解決に資する専門知識や能力を身につけた者

〔分析力・構想力〕

現代社会が直面する都市生活領域に関連する諸問題への科学的思考、調査・分析・評価・予測を通じ、国際社会に通じる有用な解決方法を構想し、提案できる能力を身につけた者、又は解決のための構想を有効で独創性のあるプランとしてまとめ、提示できる能力を身につけた者

〔語学力〕

国際社会に貢献できる素質を持ち、責任感を持って都市生活領域の研究と実務を進展させる可能性がある者と認められる者

〔研究倫理〕

適切な研究倫理面での配慮のもとに研究を続ける資質と研究を進展させる可能性がある者と認められる者

□博士後期課程

〔高度な研究能力〕

都市生活学に関する高度な研究を遂行するとともに、研究の成果を体系的にまとめあげ、知の発展に貢献する能力を身に付けた者

〔学際的な広い視座〕

都市と都市生活に関連する多様な事象および学術研究成果を俯瞰し、それらを都市生活学の専門知識と結びつけて、新たな価値創造に貢献できる能力を身につけた者

〔研究倫理〕

適切な倫理的配慮のもとに研究を続ける資質と高度な研究を進展させる可能性がある者と認められる者